

令和6年能登半島地震
東京 能登半島地震被災者支援
ボランティアパッケージ
報告書



令和6年能登半島地震
東京 能登半島地震被災者支援
ボランティアパッケージ

報告書

目次

1	東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージの概要	7
	「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」の概要	8
	「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」の経過	10
2	東京での機運醸成プログラム（活動希望者への情報提供・参加の案内）	13
	ガイダンスの開催	14
	活動報告会の開催	17
3	被災地での支援プログラム（被災地・被災者への支援）	19
	被災地での支援プログラムの概要	20
	支援プログラムの実績	22
	ボランティアに対する事前説明会と活動前オリエンテーション	24
	活動中の生活環境	25
	サロン活動日のタイムスケジュール	26
	サロン実施先の概要	27
	情報共有会議への出席	28
	各回のサロン実施報告（全23回）	30
	本プログラム終了後のサロンの動き	53
	ボランティア参加者アンケート結果（抜粋）	54
4	東京での広域避難者支援プログラム（東京に広域避難した方への支援）	57
	東京での広域避難者支援プログラム	58
5	参考資料	61
	ボランティア募集要項（第11～23回）	62
	ボランティアに対する事前説明会資料	64
	ボランティアに対する活動前オリエンテーション資料	68
	サロン活動実施報告書様式	71
	プレス情報	72
	協力団体・協力者	73

はじめに

令和6（2024）年1月1日に発生した令和6年能登半島地震及び同年9月21日の奥能登豪雨災害で被災されたすべての皆様にお見舞いを申し上げます。

今回の能登半島地震の発生を受け東京都（生活文化スポーツ局都民生活部）は、東京ボランティア・市民活動センター及び災害協働サポート東京と連携し、「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」として、①被災地での支援プログラム、②東京での広域避難者支援プログラム、及び③機運醸成プログラム（募金活動等）、の3つの取組を一体的に進めてまいりました。

被災地での支援プログラムでは、石川県穴水町に宿泊拠点を設けて4月24日から9月28日までの5か月間、毎週水～土曜日という日程で東京からボランティアを送り出し、被災された皆様の交流・支えあいの場を作る「サロン活動」を実施しました。最終的にはのべ389名のボランティアが活動し、のべ3,989名の地域住民の皆様に参加していただきました。サロンの場では、住民の皆様にはボランティアとの、そして住民の皆様どうしの交流を楽しんでいただきました。また、避難生活や仮設住宅での生活に対する不安、近隣とのつながりが希薄になることの心配など住民の皆様の声や、適宜、現地の社会福祉協議会等にお繋ぎしました。

今回のパッケージ全体を通じ、東京ボランティア・市民活動センターの持つ地域の社会福祉協議会等とのネットワーク、災害協働サポート東京の持つ企画力やノウハウなどの強みが発揮されました。東京都としても、三者で連携し、今回の経験を今後発生が想定される首都直下地震や南海トラフ地震等での災害対応に生かしてまいります。

また、宿泊拠点や物品の提供、ボランティアの募集、サロン活動の運営など様々な場面で、現地の団体・企業や都内企業、区市町村社会福祉協議会など多くの皆様から多大なるご協力を頂くとともに、たくさんのボランティアの方に参加いただきました。この場をお借りして心より感謝を申し上げますとともに、今回の取組を通じて生まれた皆様とのつながり、そして能登と東京の絆が、これからも続くことを祈念いたします。

最後に、本報告書がこれからの被災地での支援や、各地域での防災・減災対策のご検討の一助になれば幸いです。

東京都生活文化スポーツ局都民生活部長 柏原 弘幸

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、激しい揺れ、地震火災、液状化被害、厳寒期の避難所生活、上水道の長期断水に伴う生活支障など、厳しく複雑な被害が生じました。被災地での命と健康への影響も深刻でした。いまなお、仮設住宅での仮住まいを過ごされている方々、ふるさとを離れ広域避難されている方々もいらっしゃいます。心より、お見舞い申し上げます。

一般社団法人 災害協働サポート東京は、2022年8月に設立いたしました。東京における防災・減災の取組み、災害発生時の支援の仕組みづくりを、多様な団体とともに進めていく中間支援組織です。会員は団体会員と個人会員で構成され、団体会員としては、NPO法人を中心とした民間支援組織、都域の社会福祉協議会、生活協同組合組織、法人企業、労働組合、市民活動団体などで構成されています。東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議が主催する東京での大規模災害に備える「連携ワークショップ」の企画運営を担い、また各種総合防災訓練での「防災まちあるき」など、都域での市民防災活動の推進に従事しています。同時に設立前でしたが、現在の会員が従事してきた2000年三宅島噴火災害や2011年東日本大震災、2013年伊豆大島台風26号災害、2019年台風15・19号災害への対応の経験を踏まえて「東京から何ができるか」を考えてきました。

今回の能登半島地震ボランティアプログラムも、このような東京都域での取組みと構築されてきたネットワークをもとに、協働団体の一員として取組みを行いました。ご支援いただきました市民のみなさま、さまざまな団体のみなさまには、心より御礼を申し上げます。加えて、サロン活動を中心に、活動を受け入れ、会場使用等の多大な協力や、参加の輪を広げてくださった能登半島地震被災地のみなさまに、本当に心より感謝を申し上げます。本ボランティアプログラム参加者の多くが、能登半島地震被災地の「いま、ここ」を少しでも理解し、しなかやかに、根気強く、回復に向けた営みを進めていらっしゃる被災地のみなさんから、本当に多くの気づきと学びをさせていただいています。

今後とも、東京都域における災害救援・市民防災に関する中間支援団体として、能登半島地震被災地への支援活動を、多様なカタチで継続していきたいと考えております。

災害協働サポート東京 代表理事 市古 太郎

2024年1月1日に発生した能登半島地震により、多くの地域でたくさんの方々の命や暮らしが失われました。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

本支援プログラムは、東京都、災害協働サポート東京、東京ボランティア・市民活動センター（運営：社会福祉法人 東京都社会福祉協議会）の3者協働により、取組みを進めてまいりました。

こういった形での三者協働によるプログラムの企画・運営は初めての試みでしたが、東京都からは、私たちが安心して支援活動に取り組むことができるよう財政支援と、都庁内の各部署の情報連携、そして、石川県との調整を担っていただきました。また、災害協働サポート東京には、プログラム支援と現地での活動調整をご担当いただきました。これがなければ、被災地域の関係者や支援団体との連携はここまでスムーズに実現できなかったと感じています。本当に三者三様の、そして、それぞれができる限りの力を発揮して取り組んだプログラムだったのではないかと感じています。

約5か月半（全23回）という長期にわたるボランティアを受け入れてくださった現地の方のご協力もあり、延べ389名の方にご参加いただくことができました。参加者の中には、ボランティア派遣終了後も、自主的な被災地支援やチャリティー活動に取り組まれる方もおり、継続的で幅広い被災地支援へとつながっています。

能登半島の災害はまだ終わっていません。9月下旬には豪雨災害も発生しました。東京ボランティア・市民活動センターは、引き続き、災害協働サポート東京が実施するプログラムをサポートしてまいります。これからも、東京からできること、能登でできること、多様な支援の形を皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

東京ボランティア・市民活動センター 所長 山崎 美貴子

東京 能登半島地震被災者支援
ボランティアパッケージの概要

「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」の概要

令和6（2024）年1月1日に発生した能登半島地震により、石川県能登半島の各地域で大きな被害が発生しました。被害は日本海側まで広がり、新潟県、富山県、石川県及び福井県の35市11町1村に災害救助法が適用されました。

被災地では、避難生活の長期化・多様化により災害関連死や孤立孤独のリスクが高まったほか、長期にわたる支援活動により、行政や市民活動団体（NPO）等のマンパワーが不足し、被災地のみならず幅広い地域からの支援・応援が求められていました。また、甚大な被害のため、継続的なボランティア・被災者支援が求められる状況となりました。



こうした現状を踏まえ、東京都生活文化スポーツ局と東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）は、一般社団法人災害協働サポート東京（CS-Tokyo）と協働し、令和6年能登半島地震に対して、被災者支援に関する情報発信のほか、生活・コミュニティ再建等を支えるボランティア活動などを約半年にわたり実施しました。なお、実施にあたっては、TVACと都は協定を締結して取り組みました。

具体的な取組としては、下記3つとなります。

- (1) 東京での機運醸成プログラム
- (2) 被災地での支援プログラム
- (3) 東京での広域避難者支援プログラム

(1) 東京での機運醸成プログラム（詳細：P13～P18）

能登半島地震の被災地や被災者の現状、ボランティア活動の知識・ノウハウなどを伝えるガイダンスを開催しました。

また、本パッケージで実施した現地での支援活動内容をまとめた報告会を開催し、広く共有することで、継続的なボランティア・被災者支援に向けて機運醸成を図りました。



(2) 被災地での支援プログラム（詳細：P19～P56）

被災地での支援プログラムでは、ボランティアを20名～30名募集し、3泊4日でボランティアが拠点に宿泊しながら被災者支援活動に取り組みました。本プログラムの実施にあたっては穴水町に宿泊拠点を確保し、継続的な支援ができる環境を整えました。

なお、支援活動は、被災市町の行政や災害ボランティアセンター、地域団体、支援活動を行う団体等と連携して取り組むことで、被災地のニーズに合ったプログラムを企画・実施しました。なお、地元の様々な団体とともに取り組むことで、継続的な取組につなげていきました。

プログラムの内容は「コミュニティ支援プログラム」とし、被災地での支え合いの場づくり（サロン活動）を実施しました。

**(3) 東京での広域避難者支援プログラム（詳細：P57～P60）**

能登半島地震では東京に避難された方もいました。東京への避難者に対して、避難者同士の情報交換や交流、また、支援者と交流できる機会を創出し、支え合う関係を構築することによって、避難者の孤立・孤独を防ぐ取組を行いました。

**◆ 実施団体・協働団体****【実施団体】**

生活文化スポーツ局は、都民一人ひとりが自らの能力を発揮し、自主的・自立的に活動しながら豊かな生活を送るとともに、都民と行政が協働して、明日の東京を築いていくための施策を担う局です。



東京ボランティア・市民活動センターは、市民一人ひとりのより良い生き方（well-being）を実現するために「広義の福祉」の視点にもとづき、幅広い領域のボランティア活動を推進し支援するセンターです。飯田橋にあります。

**【協働団体】**

災害協働サポート東京は、災害発生時、多様な支援が実施されるよう、会員間の連携をもとに相互に情報共有を図り、必要な連絡調整を行う団体です。平時から多様な団体の連携や協働を促進し、防災・減災活動を通して、災害時にも一人ひとりが生きやすい社会を目指します。



「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」の経過

能登半島地震が発生した後、1月上旬に、東京都とTVAC、CS-Tokyoの3者が集い、今回の被災者支援活動については3者で連携・協働して取り組むことを確認しました。その後、3者合同で被災地に行つての調査（状況確認）・検討等を踏まえ、東京での機運醸成、被災地での支援活動、そして、東京への広域避難者への支援の3つについて取り組んでいくこととなりました。

被災地での支援活動の活動先については、1月より開始した被災地調査の中で、被災地域の行政や社会福祉協議会、地域団体、NPO等支援団体（平時から連携・協働している団体等）から状況をお伺いし、コミュニティ支援を必要としている地域を紹介いただき決定しました。

なお、本プログラムの実施にあたっては、kintone（キントーン）というクラウドサービスを用いてボランティアの申込情報や、各回の活動記録、アンケート結果等を情報共有し、円滑な運営につとめました。



	東京都	TVAC（東社協）	CS-Tokyo
1月	【1日】 総務局総合防災部にて情報連絡体制を構築。関係機関等から情報収集。 【4日】 「東京ボランティアレガシーネットワーク」で情報発信 【6日】 輪島市に応援職員を派遣 【9日】 東京都・TVAC・CS-Tokyoで能登半島地震への支援について打合せ 【20日～22日】 能登半島地震被災地調査を実施 【27日】 「つながる！！Tokyoボランティアフェスタ2024」にて現地写真の展示や講演を追加実施	【2日】 「ボラ市民ウェブ」にて第1報を発信。 【4日】 都内一斉街頭募金（第1期・2期）について都内の各種団体へ提案 【4日】 関係団体向けにボランティア・NPO支援情報を発信 【9日】 東京都・TVAC・CS-Tokyoで能登半島地震への支援について打合せ 【12日】 都内避難者へ生活福祉資金（緊急小口資金）災害時特例貸付を開始 【12日】 都内避難者総合相談窓口を開設 【20日～22日】 能登半島地震被災地調査を実施 【30日】 都内一斉街頭募金（第3期・4期）について都内の各種団体へ提案	【4日】 都内一斉街頭募金（第1期・2期）について都内の各種団体へ提案 【4日】 関係団体向けにボランティア・NPO支援情報を発信 【9日】 東京都・TVAC・CS-Tokyoで能登半島地震への支援について打合せ 【12日】 CS-Toyo 緊急役員会を開催し、能登への支援活動について決定 【20日～22日】 能登半島地震被災地調査を実施 【30日】 都内一斉街頭募金（第3期・4期）について都内の各種団体へ提案

	東京都	TVAC（東社協）	CS-Tokyo
2月	【16日】 「被災者支援に関心のある方に向けたガイダンス（第1回）」を開催	【10日～12日】 能登半島地震被災地調査を実施 【12日】 全国の社会福祉協議会の応援協力により、かほく市・内灘町へ職員を派遣（その後、穴水町や輪島市にも広がる） 【16日】 「被災者支援に関心のある方に向けたガイダンス（第1回）」を開催 【27日】 都内一斉街頭募金（第5期・6期）について都内の各種団体へ提案 【29日】 東京都災害派遣福祉チーム（東京 DWAT）を輪島市に派遣	【10日～12日】 能登半島地震被災地調査を実施 【16日】 「被災者支援に関心のある方に向けたガイダンス（第1回）」を開催 【27日】 都内一斉街頭募金（第5期・6期）について都内の各種団体へ提案
3月	【1日】 「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」実施に係る協定を締結（協定期間：3月31日まで） プログラム実施に向けた現地調整 【29日】 被災地での支援プログラム実施の公表	【1日】 「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」実施に係る協定を締結（協定期間：3月31日まで） プログラム実施に向けた現地調整 【8日～10日】 プログラム実施に向けた現地調整 【17日～20日】 プログラム実施に向けた現地調整 【26日】 葛飾区社協主催の避難者交流会への企画協力 【29日】 都内一斉街頭募金（第7期・8期）について都内の各種団体へ提案 【29日】 被災地での支援プログラム実施の公表	【1日】 プログラム実施に向けた現地調整 【8日～10日】 プログラム実施に向けた現地調整 【13日】 CS-Tokyo 理事会で能登半島地震被災者支援活動の現地プログラムについて協議 【17日～20日】 プログラム実施に向けた現地調整 【29日】 都内一斉街頭募金（第7期・8期）について都内の各種団体へ提案 【29日】 被災地での支援プログラム実施の公表
4月	【1日】 「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」実施に係る協定を締結（協定期間：7月31日まで）	【1日】 「東京 能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ」実施に係る協定を締結（協定期間：7月31日まで） 【8～10日】 プログラム実施に向けた現地調整	【8～10日】 プログラム実施に向けた現地調整

	東京都	TVAC（東社協）	CS-Tokyo
4月	【13日～14日】 プログラム実施に向けた現地調整 【17日・18日・19日】 プログラム事前説明会の開催 【24日】 被災地での支援プログラム実施 (第1回～第3回)	【9日・11日】 区市町村 VC へのボランティア 募集・受付の説明会開催 【13日～14日】 プログラム実施に向けた現地調整 【17日・18日・19日】 プログラム事前説明会の開催 【20日～23日】 プログラム実施直前調整 【24日】 被災地での支援プログラム実施 (第1回～第3回)	【13日～14日】 プログラム実施に向けた現地調整 【17日・18日・19日】 プログラム事前説明会の開催 【20日～23日】 プログラム実施直前調整 【24日】 被災地での支援プログラム実施 (第1回～第3回)
5月	【15日】 被災地での支援プログラム実施 (第4回～第10回)	【15日】 被災地での支援プログラム実施 (第4回～第10回)	【15日】 被災地での支援プログラム実施 (第4回～第10回)
6月	【11日】 「被災者支援に関心のある方に向 けたガイダンス（第2回）」を実施 【19日】 避難者交流会を足立区で実施 【25日】 被災者支援活動報告会を実施 「東京 能登半島地震被災者支援 ボランティアパッケージ」実施 に係る協定について、協定期間 を延長（10月31日まで）	【11日】 「被災者支援に関心のある方に向 けたガイダンス（第2回）」を実施 【19日】 避難者交流会を足立区で実施 【25日】 被災者支援活動報告会を実施 「東京 能登半島地震被災者支援 ボランティアパッケージ」実施 に係る協定について、協定期間 を延長（10月31日まで）	【11日】 「被災者支援に関心のある方に向 けたガイダンス（第2回）」を実施 【19日】 避難者交流会を足立区で実施 【25日】 被災者支援活動報告会を実施
7月	【3日】 被災地での支援プログラム実施 (第11回～第23回)	【3日】 被災地での支援プログラム実施 (第11回～第23回)	【3日】 被災地での支援プログラム実施 (第11回～第23回)
8月	【22日】 「被災者支援に関心のある方に向 けたガイダンス（第3回）」を実施	【22日】 「被災者支援に関心のある方に向 けたガイダンス（第3回）」を実施	【22日】 「被災者支援に関心のある方に向 けたガイダンス（第3回）」を実施
9月	【8日】 避難者交流会を葛飾区で実施 【28日】 被災地での支援プログラム終了	【8日】 避難者交流会を葛飾区で実施 【28日】 被災地での支援プログラム終了	【8日】 避難者交流会を葛飾区で実施 【28日】 被災地での支援プログラム終了
10月	【20日】 被災者支援活動報告会を実施	【3日】 都内一斉街頭募金（第7期・8期） について都内の各種団体へ提案 【20日】 被災者支援活動報告会を実施	【3日】 都内一斉街頭募金（第7期・8期） について都内の各種団体へ提案 【20日】 被災者支援活動報告会を実施

東京での機運醸成プログラム
(活動希望者への情報提供・参加の案内)



被災者支援に関心のある方に向けたガイダンス

被災地での活動や、被災者の支援に関心がある方に対して、現地の状況や都内でもできる様々な支援のあり方等について情報提供し、支援に向けた機運の維持・拡大をはかるため、被災者支援に関心のある方に向けたガイダンスを開催しました。

<第1回ガイダンス>

- ・日時：2024年2月16日（金）19時～20時30分
- ・実施方法および参加者数：対面形式（41名）／ZOOMを用いたオンライン形式（160名）
- ・会場：飯田橋セントラルプラザ12階会議室
- ・説明 東京ボランティア市民活動センター：加納 佑一／災害協働サポート東京：福田 信章
 - ①令和6年能登半島地震の概要について
 - ②災害ボランティア活動に必要な知識
 - ③被災地の状況と現在行われているボランティア活動等の支援の概要

◇アンケート結果

- ・テレビ、新聞等での報道をより詳細に理解できた。
- ・刻一刻と変化する現地の様子をリアルタイムで教えて頂き、大変よく理解できた。また、都市ごとに被害状況を数字で示して頂いたことも現地の状況への理解へと繋がった。ニュースなど報道で得る情報以上に、被災された皆さんが過酷な状況下に置かれていること、また支援する皆さんも交通状況で思うように活動時間が確保できず支援が長期化することを知り、改めて支援の気持ちを持ち続けることの大切さを強くすることが出来た。
- ・ニュース報道とは異なるボランティア目線での最新情報とボランティアの活動の実態について詳しく知ることが出来た。
- ・能登半島地震を捉える上で、過去の災害を踏まえて比較して教えてくださるご経験者の話が大変参考になった。
- ・東京からのボランティアの置かれている状況が分かった。
- ・現在のボランティア活動の現状や、これから参加するにあたってボランティアの流れも初心者の方にとってもわかりやすい内容だった。実際に自分が活動するとしたらという目線で拝聴することができた。
- ・とても分かりやすい説明と資料で、大変参考になった。支援に入っている団体が現地で活動中で多忙な中、こうした取りまとめをしてくださるのは素晴らしい。災害の支援は毎回異なるが、活動し続けてきた経験と知見が意味を持つということも、お話を伺って実感した。
- ・これまでの震災を考えると今回も復興まで長期的な時間が必要だと思われる。現地の状況やボランティアに求められるニーズも変わっていくと思う。定期的にこのようなガイダンスを開催していただけるとありがたい。

＜第2回ガイダンス＞

- ・日時：2024年6月11日（火）19時～20時30分
- ・実施方法および参加者数：ZOOMを用いたオンライン形式（118名）
- ・説明 東京ボランティア市民活動センター：加納 佑一／災害協働サポート東京：福田 信章
 - ①被災地の状況
 - ②現在行われているボランティア活動等の支援の概要
 - ③寄附や物資支援など都内でもできる、被災地に向けた様々な支援の種類
 - ④災害ボランティア活動に必要な知識

◇アンケート結果

- ・被災地の現状や活動内容の説明が大変わかりやすかった。現状を把握でき、まだまだ支援が必要な状況である事が理解できた。
- ・すでにボランティアに複数回参加したが知らない情報も多くとても参考になった。
- ・被災地でのボランティア経験がなく不安が大きかったが、網羅的な情報を入手することができ安心できた。
- ・テレビなどではわからない実際に行っている方の話を聞いて、より具体性が持てた。また、募金情報など現地に行けずともできる活動も知ることができたのでとても満足している。
- ・被災地の現状やボランティア各所の案内をしていただけた。
- ・支援できる方法がいくつもあることが分かり、大変有益な時間だった。
- ・質問に対してこういう形式ならできますよ、と答えていたのが印象的だった。担当の方々が現地で活動されているため大変説得力があった。
- ・ボランティアとして現地で活動するための方法を複数提示してくださったことで、信頼できる情報を多く知ることができた。
- ・カウンセリングを生業にしており、被災地、被災者に何かできないかと探していた。ガイダンスに参加してこの活動であればよりできることが多いのではないかと考え、ボランティアの参加を決めた。
- ・2月にも一度参加しているが、このような説明会は意外と少なく、貴重な機会と感じて再び参加した。
- ・被災地の方々からのメッセージがあり、被災地での活動をしたくなりました。現地でも現地でなくても、今後も関心を絶やさず、自分たちにできることを続けていきたいと思います。

<第3回ガイダンス>

- ・日時：2024年8月22日（木）19時～20時30分
- ・実施方法および参加者数：ZOOMを用いたオンライン形式（111名）
- ・説明 東京ボランティア市民活動センター：加納 佑一／災害協働サポート東京：福田 信章
 - ①被災地の被害状況
 - ②募集を受け付けている災害ボランティアセンターの設置状況
 - ③現在行われているボランティア活動・NPO等による支援の概要と課題
 - ④寄附や物資支援など都内でもできる、被災地に向けた様々な支援の種類
 - ⑤災害ボランティア活動に必要な知識

◇アンケート結果

- ・現在の被災地の被害状況、ボランティアの受け入れ状況、今後の見込みが端的にまとめられて理解できました。被災者のみなさんがサロンをどのように受け止められているのか、東日本大震災と比べてもさらに必要とされているのだと知ることができました。
- ・ボランティアに参加した後だったので、より実感をもって話を聞くことができました。まだまだ支援が足りない事などを知ることができ大変勉強になりました。
- ・石川県ボランティアへの登録以外にも様々な参加のルートがあることがわかった。
- ・9月にボランティア活動に参加する予定で、初めてこのガイダンスを知り参加しました。もっと早く知っていれば良かったです。とても参考になり、心積もりができました。ありがとうございました。
- ・能登半島地震における被害状況と復旧・復興状況がわかりました。東京のメディアではもうあまり報道されていないので、とても参考になりました。
- ・発災から約半年が経つ現在の状況を知ることができた。
- ・現状について、実際にみている人にしかわからない情報を、聞くことができて良かったです。
- ・会社の同僚と9月に珠洲市へボランティアに行く予定です。このタイミングで現地の状況の理解が深まり、参考になりました。
- ・今回のように半年や1年などの区切りで、情報発信があると助かります。定期的に参加したいと思いました。

活動報告会の開催

これまでの取組実績を、プログラム参加者や関係団体の職員に伝えるとともに、まだこの取組に関わっていない団体や個人に対して情報発信をすることで、さらなる被災地・被災者支援につなげるため、活動報告会を開催しました。

<第1回活動報告会>

- ・日時：2024年6月25日（火）19時00分～20時30分
- ・実施方法および参加者数：対面形式（71名）／ZOOMを用いたオンライン形式（93名）
- ・会場：飯田橋セントラルプラザ12階会議室
- ・説明 東京ボランティア・市民活動センター：加納 佑一／災害協働サポート東京：福田 伸章
 - ①能登半島地震被災者支援ボランティアパッケージ実施報告
 - ②被災地（現地団体・関係者）からのメッセージ
 - ③今後の取組について

◇被災地からのメッセージ

- ・報告会に参加している方の多さ、熱量の高さに驚いた。自分のお金と時間を使ってボランティアに来ていただいていることに感動している。
- ・毎週の活動日が楽しみで、みんな喜んで来ている。お互いに話をする機会がない中で、みんな明るくなるし、気持ちも楽しくなる。これからもよろしくお願いします。
- ・約半年が経つが、町中の様子は全然変わっていない。みんなの心も前に進めなくなって、落ち込んでいる。ちょっとずつボランティアも減ってきている。皆さんには地域のおじい、おばあが笑顔になるような楽しい会話を、交流をして欲しい。

◇アンケート結果

- ・東京都とTVACとCS-Tokyoの三者協働がどのように機能したかを知れて良かった。最後のメッセージ動画も現地の方の気持ちがダイレクトに伝わり、良い仕組みだと思いました。
- ・震災発生後の三者の動きや思いがよくわかり、興味深かったです。現地調査などスタッフ皆様のお蔭でボランティア活動が実現していることがよく分かりました。
- ・被災地の方からのメッセージ動画を見て、この活動で今まで参加されてきたボランティアの皆さんが、被災者に寄り添うという姿勢で活動され、地域の方々に喜んでもらえるものになっていると思いました。
- ・実際に行った方々、これから行こうとしている方々の声が聞けたこと。また運営チームの想いが伺えたこと。報道でボランティアそのものの存在は知っていても、普段生活している中ではあまり触れられない声でした。ボランティア活動がどのようなものかイメージできました。
- ・1月に石川県のボランティアに参加しました。東京と地方との関係性からも東京の色々な力を地方に分散させて行くことは必要と思います。また行政・ボランティア団体・市民ボランティアの連携が災害の多い日本ではキーワードになると実感します。

<第2回活動報告会>

- ・日時：2024年10月20日（日）15時00分～17時30分
- ・実施方法および参加者数：対面形式（155名）／ZOOMを用いたオンライン形式（30名）
- ・会場：都議会議事堂1階「都民ホール」
- ・説明 東京ボランティア・市民活動センター：加納 佑一／災害協働サポート東京：福田 伸章

- ①これまで実施した能登半島地震被災者支援の取組報告
- ②被災地からのメッセージや参加したボランティア等からのコメント
- ③豪雨災害後の被災地の様子や支援団体の活動など現地の状況報告

◇被災地からのメッセージ

- ・若い人たちが来ていただいて、若いなりに、お年寄りの悩み事、苦情を嫌がらずに聞いてもらえた。私はみなさんに「東京のカウンセラー」というあだ名をつけていました。
- ・今でも、住民のみんなは“赤い帽子”のことを絶対に忘れないでいるので、今度おいでになる時も赤い帽子をかぶって来ていただければよいと思います。
- ・本当にきめ細かい支援をしてくださって、今、その想いが地元の皆さんに移りつつある。地元の人たちにも「私たちもサロンをやって、地元を支えていきたい」という想いが芽生えてきました。
- ・11月から2週間に1回、私がサロンをやってみようと思います。5～6人でもよいから集まって、いろいろお話しをしたり、ゲームしたりもするわいね。
- ・近い人同士の間だと、内情のことって喋りにくい。みんなお互いを知りすぎているので、悩みを言いにくい。外の方が来てくれて、他愛ない話からの方が話しやすいです。この半年のサロンで、そういう話をできた人がたくさんいる。
- ・能登半島全域で復興するには10年、20年かかると言われています。その時、自分は43歳、53歳です。私の一生、ずっと復興かってすごい悩みます。

◇アンケート結果

- ・ボランティアに参加して、その振り返りができた事。被災地の現状を会場の皆さんと共有できた事は特に有意義でした。
- ・リレートーク形式でボランティア、支援している方々、被災者のそれぞれの方の声が聞けてよかった。能登の人々がこの活動をどのように受け止めていたのか、また愛着を感じてくれたことを知り、サロン活動の重要性がよくわかった。
- ・被災された方の生の声を聴くことができたことは貴重な機会でした。特に「10年先、20年先の自分」を語られた話は非常に印象的でした。長い時間を要する「復興」を担われる若い世代の方々の深い悩みを垣間見た気持ちです。
- ・ボランティア活動後のフィードバックが自分だけで処理できず、消化不良をおこしていたため、改めて気持ちの整理ができてよかった。
- ・非常に良いプログラムだったことを認識できた。今後の都、TVACそして各市町村の社協の活動に期待したい。それを見える化できればさらに良いと思います。
- ・行政、社協、CS-Tokyoの協働はとても良いことだと思います。これからも連携が深まることを望みます。

被災地での支援プログラム
(被災地・被災者への支援)

被災地での支援プログラムの概要

- ・期間：2024年4/24（水）～9/28（土）における毎週水～土曜日（3泊4日）。全23回。
- ・サロン実施地区（最終）
 - ①石川県穴水町：4地区（諸橋／甲／中居／志ヶ浦）
 - ②石川県輪島市：4地区（金蔵／門前／七浦／浦上）



- ・活動内容：地域での交流・支え合いの場づくり（サロン活動）等
- ・目的

- ①被災者の居場所づくり
- ②被災者とボランティアの交流

<ボランティアについて>

- ・参加費：10,000円（移動に係る経費の一部、食料費（実費）として）
- ・募集人数：各回20～30名程度
- ・グループ編成：本プログラム中は6名×4グループにて活動（各回によってバラつきあり）

・募集要件：下記の条件を満たす方

- ① 18 歳以上の方
- ② 事前説明会に参加できる方
- ③ 活動の意義・目的を理解いただき、安全を確保し、協調性を持ってチームで活動できる方

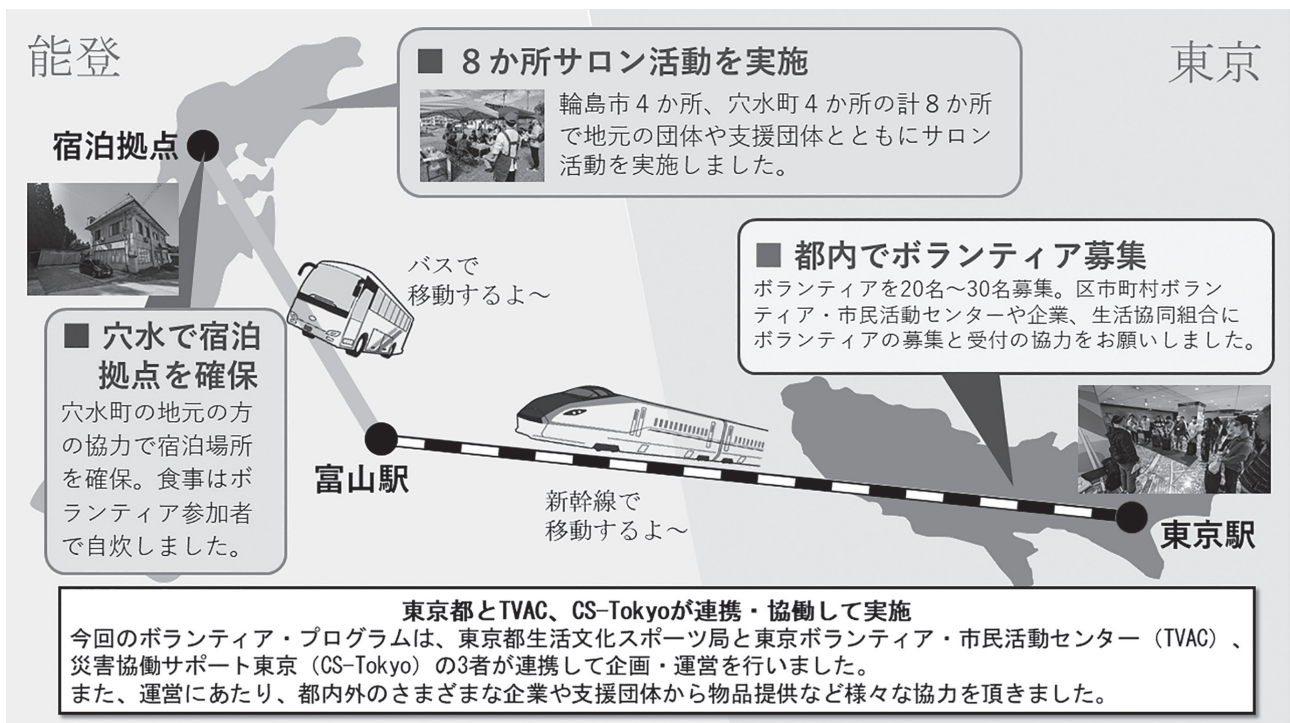
・申込方法（第 4 回以降）：下記の何れか

- ① 団体（3 名以上の団体）での申込：東京ボランティア・市民活動センターにて受付
- ② 個人での申込：都内の在住／在学／在勤地の区市町村ボランティアセンターにて受付

Q：なぜ、個人申込は区市町村のボランティアセンターで受付けるのですか？

A：本プログラムへの参加後、ボランティアの方には、是非その学びを東京での防災・減災の活動に活かしていただきたいと思います。そのための第一歩として、まずは身近なボランティアセンターとつながっていただきたいと思います。申込受付の窓口とさせていただきました。

- ・移動手段：東京駅集合後、新幹線で富山駅まで移動。富山駅から宿泊拠点まで借上バスで移動
- ・宿泊環境：被災地の協力によって穴水町に設置した宿泊拠点
- ・食事：拠点滞在中の食事は食料を調達の上参加者による自炊



支援プログラムの実績

令和6（2024）年4月24日～9月28日の間で、全23回のプログラムが実施されました。延べ1,058名の方からの申込があり、延べ389名の方々がボランティアとして参加しました。

活動内容ががれきの撤去や、泥の掻き出しといった肉体労働ではなく、サロン活動だったこともあり、性別は男女がちょうど半々となる結果となりました。年齢は50代の比率が最も高く、次いで20代が高くなっています。大学が夏休み期間となる7月下旬以降は、10代・20代の参加が目立ちました。総じて、今回のプログラムに参加された方の性別や年齢に偏りは少なく、さまざまな方が参加したことが伺えます。また、約半数はこれまでに災害ボランティアへの参加経験のない方でした。

【ボランティアについて】

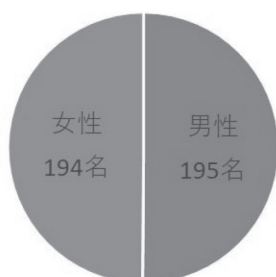
活動期間：令和6（2024）年4月24日～9月28日の毎週水～土曜日（全23回）

申込者数：1,058名

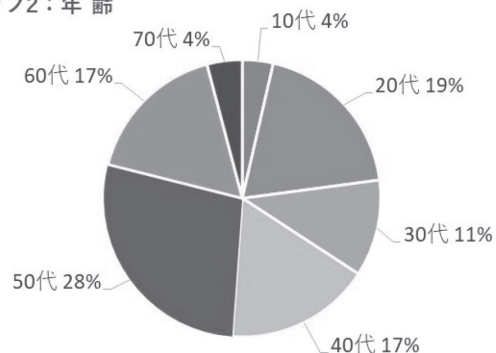
活動者数：389名

＜プログラム参加者の属性＞

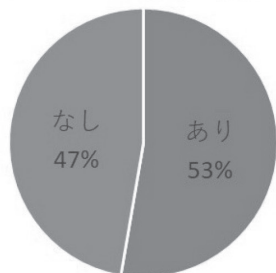
グラフ1：性別



グラフ2：年齢



グラフ3：災害ボランティア経験の有無



サロンにご参加いただいた現地の方は延べ 3,989 名にもわたり、各地域ともに毎週のように参加いただく方が大半で、安定した実施状況となりました。どの地域でも、本活動は広く認知され、「赤帽さん（我々は活動の際、トレードマークとして赤い帽子を必ず身に着けます）、いつもありがとね。今週も行くね」「毎週、みんなに会えるのが楽しみで、サロンの日はカレンダーに○をつけているのよ」といった声をたくさんいただきました。

サロン参加者数：3,989 名

<穴水町>諸橋：254 名／兜：452 名／中居：241 名／志ヶ浦：254 名

<輪島市>金蔵：329 名／禅の里：1,094 名／七浦：760 名／浦上：605 名

■各回のボランティア数とサロン参加者数

	ボランティア数(人)	サロン参加者(人)								
		諸橋	兜	中居	金蔵	志ヶ浦	禅の里	七浦	浦上	計
第01回	12	11			15		32	35		93
第02回	14	16			17		30	34		97
第03回	17	17			16		40	37		110
第04回	20	7			21		34	40	30	132
第05回	19	12			17		75	45	38	187
第06回	13	14	38		15		57	42	32	198
第07回	17	14	34		11		50	33	30	172
第08回	15	5	27		15		55	36	40	178
第09回	20	4	21		16		61	30	29	161
第10回	20	14	33	31	13	30	33	32	30	216
第11回	16	10	32	21	23	20	58	31	30	225
第12回	13	13	29	26	15	20	56	28	29	216
第13回	11	16	25	14	16	17	53	27	36	204
第14回	12	19	23	20	14	16	55	25	36	208
第15回	18	8	23	13	15	13	60	28	30	190
第16回	22	12	25	19	14	16	52	30	30	198
第17回	20	5	14	14	14	18	50	26	25	166
第18回	18	11	24	16	14	13	43	31	32	184
第19回	19	6	24	12	12	21	48	37	26	186
第20回	16	8	21	14	12	20	36	32	38	181
第21回	20	9	15	12	12	17	32	34	32	163
第22回	20	10	20	19	6	14	41	29	32	171
第23回	17	13	24	10	6	19	43	38	0	153
計	389	254	452	241	329	254	1094	760	605	3989

ボランティアに対する事前説明会と活動前オリエンテーション

・事前説明会

本プログラムの参加にあたっては、事前説明会への参加を要件の一つとしました。本プログラムの目的や現地での活動状況、注意事項等について予めご理解頂いた上でご参加いただくためです。参加者のうち、半数の方はこれまでに災害ボランティアに参加したことがなく、多くの方にとって初めての被災地、初めての災害ボランティア活動であったため、現地に向かう上での心の準備をする機会になりました。また、説明会后、各回の参加者同士での自己紹介の時間を設けることで、円滑にプログラムに参加いただけるよう工夫しました。

事前説明会：全 23 回開催（19 時 00 分～ 20 時 30 分）

- ・ 4 月 17 日（水）／ 18 日（木）／ 19 日（金）
- ・ 5 月 1 日（水）／ 8 日（水）／ 15 日（水）／ 22 日（水）／ 29 日（水）
- ・ 6 月 5 日（水）／ 12 日（水）／ 19 日（水）／ 26 日（水）
- ・ 7 月 3 日（水）／ 10 日（水）／ 17 日（水）／ 24 日（水）／ 31 日（水）
- ・ 8 月 7 日（水）／ 14 日（水）／ 21 日（水）／ 28 日（水）
- ・ 9 月 4 日（水）／ 11 日（水）

・活動前オリエンテーション

活動前のオリエンテーションは、活動拠点に向かうバスの中から始まります。激震地となった奥能登地域に向けて能登半島を北上する中、バスの車窓から見える景色や、路面状況の変化などを感じつつ、被災地域に暮らす地域住民の方の想いに胸を馳せます。

宿泊拠点に到着後、あらためて本プログラムの目的や集団行動上でのルールを確認して活動が始まります。特にボランティア参加者には「被災地域の住民の方の立場になって、自分だったらどう思うか、どのように感じるか」を意識してもらえよう伝えました。



活動中の生活環境

現地の被害状況や断水などのライフラインの状況から輪島市・穴水町近辺で宿泊先を確保することは難しく、活動拠点の確保は大きな課題でした。本活動では、地元の方のご協力を得て「昭栄ビル（穴水駅から車で5分程度）」という建物の1階部分を借り受けました。ホテルや旅館のような宿泊を目的とした建物ではないため、内装工事やシンクやエアコンの設置等によって住環境を整えていきました。また、生活備品として必要になる物品については、さまざまな企業、団体から本プログラムへの協力としてご提供いただきました。

・寝室

昭栄ビル1階は、正面玄関から入ると、部屋が左右に大きく分かれる構造となっており、男女の部屋は明確に区分することができました。各寝室には二段ベッドを設置して寝泊りしました。

・入浴

内装工事を行い、シャワーを2台設置しました。活動中は、拠点のシャワー室を使用するほか、拠点から車で10分ほどの「能登ふれあい文化センター」の入浴施設も利用しました。

・食事

チームビルディングの一環として、滞在中の食事作りは3食ともボランティアがグループごとに、順番で担当しました。食事メニューも自分たちで決めるので、各回で異なる献立となります。

・赤帽子／サテンシール

活動時、ボランティアの方々には、赤帽子を被って「東京」のロゴが入ったサテンシールを身に付けてもらいました。赤帽子は東京から来ているボランティアの代名詞として、地域住民に広く浸透しました。

・レンタカー

活動拠点からサロン場所や視察先に向かうための移動手段として、計8台のレンタカーを確保しました。



サロン活動日のタイムスケジュール

下記はサロン活動日（2・3日目）のタイムスケジュールです。

なお、1・4日目は大半が移動時間となります。東京駅から富山駅までが新幹線で2時間弱。富山駅から宿泊拠点までが、大型バスで2時間30分～3時間程度を要します。特に活動初期の車移動は道路が未整備だったため、時間がかかりました。

06：00 起床

- ・6時より前に目が覚めた場合でも、起床時刻までベッドの上で静かに過ごしてもらおう。朝食担当班が調理開始

07：00 朝食

- ・調理と食事はガレージを改装したキッチンにて行う。後片付けはボランティア全員で行う

08：00 グループごとに昼食（おにぎり）を準備

08：30 サロン物品の確認

09：30～10：00 サロンに向けて出発

- ・活動拠点からサロン場所までの所要時間が異なるため、順次に出発
- ・時間に余裕があれば、穴水町の災害ボランティアセンターや、他の支援団体を見学

11：00 翌週分のチラシ配布

12：00 昼食／サロン準備

14：00 サロン開始

16：00 サロン終了／サロン片付け

16：30 活動拠点に向けて出発

- ・夕食までに入浴を済ます。入浴場所は活動拠点か能登ふれあい文化センターを利用

17：30 夕食担当班が調理開始

18：30 夕食

- ・後片付け後は自由時間。寝室で休まれる方もいれば、ガレージでお喋りを楽しむ方も

20：00 ミーティング（各グループからサロンの活動報告）

20：30 サロンレポートの作成（各グループにて「サロン活動時の様子」や「地域住民の声」といった項目のレポートを作成。後日、地元の社会福祉協議会や被災地支援を担う団体と共有をはかる）

- ・レポートの作成後は自由時間

22：30 就寝（活動初期は22：00就寝）



サロン実施先の概要

●穴水町／諸橋地区

＜実施期間＞第1回～23回の毎週木曜日

＜実施場所＞おにぎりサロン（仮設住宅近くの建物）

＜延べ参加者数＞254名

- ・当初は主に10戸の仮設住宅にお住まいの方を対象にサロンを開催。第13回以降は地域にお住まいの方にもチラシを配布してご参加いただいた。
- ・参加が少人数だった分、皆で好きな歌を歌ったり、ゲームをしたり、楽しい時間を過ごした。



●穴水町／甲地区

＜実施期間＞第6回～第23回の毎週木曜日

＜実施場所＞兜公民館

＜延べ参加者数＞452名

- ・初夏の汗ばむ季節になっても、屋外の風が抜けるテラス席が大人気だった。
- ・102歳の一人暮らしの方が、毎回サロンに参加できるよう、周りの住民の皆さんの力強いサポートがあった。



●穴水町／中居地区

＜実施期間＞第10回～第23回の毎週木曜日

＜実施場所＞住吉公民館／能登中居铸物館

＜延べ参加者数＞241名

- ・我々のサロン活動日に合わせて、公民館のイベント（盆踊りの練習・演舞鑑賞・健康講座・かき氷・合唱など）を開催いただいた。
- ・公民館の周囲の地盤が沈下した影響で、満潮時には目の前の道路が冠水してしまう。時々、カニ・クラゲ・フグ等が道路に浮かんでいることも。



●穴水町／志ヶ浦地区

＜実施期間＞第10回～第23回の毎週金曜日

＜実施場所＞志ヶ浦コミュニティーセンター

＜延べ参加者数＞254名

- ・海岸線に面した横長の地域で、目の前にオーシャンビューが広がる。
- ・志ヶ浦地区の見守り相談員を担っている民生委員の方のサポートがあり、一緒に仮設住宅をまわってサロン参加の声掛け等をいただいた。



●輪島市／金蔵地区

＜実施期間＞第1回～第23回の毎週木曜日

＜実施場所＞金蔵集会所

＜延べ参加者数＞329名

- ・毎回のサロン開始前に、30分ほど「100歳体操」をみんなでやる。体操はかなりハードで大学生のボランティアも息を切らすほど。
- ・また、住民同士での情報共有や話し合いの時間を毎回作っている。サロン開始ギリギリまで白熱した議論が交わされることも。



●輪島市／門前地区

＜実施期間＞第1回～第23回の毎週金曜日

＜実施場所＞禅の里交流館

＜延べ参加者数＞1,094名

- ・群を抜いて参加者数が多く、近隣の学校の生徒がサロンの手伝いに来てくれることもあった。
- ・障害児者の余暇支援を担うNPO法人「夢かぼちゃ」から、サロンの配膳や注文聞きを担う力強い助っ人が毎回来てくれた。



●輪島市／七浦地区

＜実施期間＞第1回～第23回の毎週金曜日

＜実施場所＞皆月集会所

＜延べ参加者数＞760名

- ・毎回、サロンを手伝ってくれる住民の方がおり、いつもボランティアを温かく迎え入れ、会場のレイアウトや配膳のコツを教えてくれた。
- ・第23回は豪雨のため、避難先の門前東小学校で開催した。



●輪島市／浦上地区

＜実施期間＞第3回～第22回の毎週金曜日

＜実施場所＞浦上公民館

＜延べ参加者数＞605名

- ・目の前の仮設住宅にお住まいの方や地域住民の方、車でお越しになる方など、幅広い方が参加するサロンで、他所と比べると男性の参加の割合が高めな傾向にある。
- ・第23回は豪雨のため、会場が使用できず、開催を中止した。



情報共有会議への出席

今回の被災地支援プログラムは、被災地域の様々な団体との連携により実施しました。被災地域で行われている関係団体が集う情報共有会議にも出席し、支援活動の情報交換を行いました。情報共有会議には、被災地域の行政や支援団体が参加しており、そこで得られた情報をサロン活動で被災者にお伝えしたり、会議でいただいた資料を参加者に配付したりしました。

また、広域避難者支援に関する情報共有会議がオンラインで行われ、能登半島からの避難者の多い大阪府、愛知県、東京都の支援団体が参加し、お互いの取組の情報交換ならびに課題共有を行いました。

1 門前町連携会議

毎週水曜日 16 時～輪島市門前支所にて行われている「門前町連携会議」に参加し、輪島市門前支所や輪島市社会福祉協議会門前支所、また、門前町で活動する様々な支援団体と情報交換を行いました（ただし、水曜日が本プログラムの 1 日目ということもあり、毎回参加はできませんでした）。

2 穴水町支援・NPO 等情報交換会

穴水町で不定期に行われていた「穴水町支援・NPO 等情報交換会」に参加し、穴水町や穴水町社会福祉協議会、穴水町で活動する様々な支援団体と情報交換を行いました（主催：認定 NPO 法人レスキューストックヤード）。

3 能登半島地震・広域避難者に関する意見交換会

能登半島地震の広域避難者を支援する団体を対象とした意見交換会に参加し、大阪府、愛知県で支援活動を行う団体と情報交換・意見交換を行いました（主催：認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN））。



各回のサロン実施報告（第1回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年4月24日（水）～4月27日（土）

■ボランティア参加者数：12名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
4月25日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	11名
4月25日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	15名
4月26日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	32名
4月26日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	35名

■被災者の声（主なもの）

- ・被災後デイサービスにいけなかったため娘が休職して介護している。再開見通しがたたず経済的にも大変、不安。このような外に出てくる機会があることはありがたい。
- ・ボランティアを申請したが、まだ反応がなく来ていない。
- ・夜になると何もすることがないので、これからどうしたらよいのか、と落ち込んでしまう。
- ・ようやく仮設住宅に入れた。これまでお父さん（夫）の墓に行くのに40分かけて歩いて行っていたけど、これからは20分ですむ。
- ・こうして集まって話ができるとストレス解消になる。本当にありがとう。来週もまた来るよ。
- ・ウチは堤（つつみ）が大丈夫だったから先週から田んぼに水を入れられたけど、堤や用水路（パイプライン）がダメな地区は今年は田んぼをやれないだろうから本当に気の毒だよ。
- ・隆起により船が乗り上げてしまい漁に出られない。高齢ということもあり廃業を検討中。これからが漁のいい時期。
- ・あらー。〇〇さんの奥さんなの？大丈夫だった？元気だった？

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・ほとんどの世帯で子供世帯が遠方に出てしまっており、頼れる人が周りにいない、頼りづらい状況が課題だと感じた。復旧作業は基本的に一人で作業している姿が目立った。普段の食事は「当然自炊している」と話しており、支援物資の中でもガスコンロの需要がかなり高かった。
- ・「～さんのところは△△に避難しているみたいだよ」等、ご近所の方々の震災後の様子を情報交換していた。会話の中で「そうなんだ～」「知らなかった」という反応が多かったことから、震災後こうして集まって情報交換できる場はあまりなかった様子がうかがえた。



各回のサロン実施報告（第2回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年5月1日（水）～5月4日（土）

■ボランティア参加者数：14名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月2日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	16名
5月2日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	17名
5月3日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	30名
5月3日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	34名

■被災者の声（主なもの）

- ・4月によりやく水と電気が通ったので帰ってきた。
- ・このサロンは6月まで決まっているが、せめて9月まではこのまま継続してほしい。
- ・市からの補助金の申請がめんどくさい。
- ・誰か誘って来たいけど、みんな仮設住宅、地域の外に出ていなくなってしまったのでさみしい。
- ・瓦礫の撤去が終わっていない。家族が連休中に来てくれることになっているが、手つかず。ボランティアに応援を求めるのは申し訳ないので依頼しない。
- ・「被災したのはあんただけじゃないよ」とご近所さんから言われることもあり、支援を受けることに抵抗がある。
- ・漁師さん78歳、ここでずっと生きてきたのにこんなことになるとは…。元は海岸がなかったのに隆起してこんな状態になっちゃって漁もできない（今の海を”綺麗”とは思えない）。
- ・児童館など子どもが遊べる場所がなくなったので、それに困っている。
- ・1月1日に旅館で被災したが、しばらくは対応で忙しくて来れず、今は社長が遠方に住んでいることを考慮して、休みをもらい、来れている。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・ご近所通しのつながりがある程度残っていることは実感（少し安心）した。一方、孤立しがちな人、ご近所さんや友人・家族がいなくて孤立している人にどう輪に入っていただくかが悩ましい。
- ・来週を楽しみに待っている人が多かった。生きがい、楽しみを持つことは大切だと実感。
- ・このサロンが地域の情報交換や安否確認につながる。外からの支援の大切さ。
- ・震災当時受験生だった現在大学1年生の3人組の話が印象的だった。被災した当時受験勉強をしていて赤ペンを持って逃げた、カフェで勉強していて被災など。受験生というストレスのたまる時期に被災し、食事数日は喉を通らなかったなど。そんな経験をしたなかでも、しなやかに生きる彼女たちの姿に心を打たれた。大学進学先がバラバラだが、今回サロンに来てくれて、彼女たちの集まる場所にもなったのではないかな。



各回のサロン実施報告（第3回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年5月8日（水）～5月11日（土）

■ボランティア参加者数：17名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月9日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	17名
5月9日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	16名
5月10日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	40名
5月10日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	37名

■被災者の声（主なもの）

- ・地域の情報が得られないことが不安。回覧板が回っていない、ネットが使えないので地域の情報を入手する方法がない。
- ・仮設住宅に入居しているが、土いじりをしたい。近くの農園の一画を借りられないか。
- ・家の片付けをボランティアに頼んだが、何を捨てるかをすぐに判断しなければいけない気がして、あとから捨てなければよかったと思うものもあった。
- ・買い物も学校も大変。町野まで4kmある。児童の送迎において親の負担が多い。
- ・3日前に仮設住宅に入居したが、洗濯機やお風呂の使い方が分からず使えていない。
- ・どれだけ片づけても終わりが見えない。仮設は2年間しか住めないから土地をどうするか、どこに住むか。今後が不安。知り合いのいない場所に行きたくないからここに残りたい。
- ・海を見ながら入れる温泉が地域にあったが「今は海を見るのが怖い」。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・サロン活動を知っている方が多く、活動が浸透していると感じた。
- ・同時時間帯に開催されたイベント（コンサート、体操など）の影響もあってか途切れることなく人が集まった。歌を歌ったら喜ばれた。笑顔が多くその場の一体感が生まれた。
- ・地域の方がお手伝いで参加してくれた。
- ・被災後に初めて顔を合わせたという方もいて、お互いの安否や近況を知る機会になっている。
- ・人が集まる場所が苦手な男性は多いと思うので配慮しつつ、お誘いできると良い。
- ・困っていることを聞いてもどこも大変だからと遠慮されてしまった。聞き取りが難しいと感じた。
- ・500年前の焼け野原になった歴史と今回の震災を重ねて説明されていたのが印象的。
- ・会えなくなった人が多くいて寂しく、何をしても気持ちが続かないと言っていた。そういった方に人が集まれてホッとできる場所があるのは良いことだと思った。



各回のサロン実施報告（第4回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年5月15日（水）～5月18日（土）

■ボランティア参加者数：20名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月16日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	7名
5月16日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	21名
5月17日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	34名
5月17日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	40名
5月17日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・家にいると嫌になるがサロンに来ると気がまぎれる。顔見知りの近所の人と会うと安心する。
- ・輪島の避難所で生活をしている。歩いていたらサロンを発見して来てみた。話をして気分が変わった。どうもありがとう。
- ・家の公費解体の順番待ち。仮設住宅に住める2年間に生活を再建できるか心配。
- ・家が半壊。修理、撤去について相談先がわからない。災害ごみの期限に間に合わない。情報が知りたい。
- ・震災の話をしているよりも、未来のことを話しているほうが楽しい。2日おきに来る移動販売が楽しみ。
- ・近所に木工屋さんができて9カ月で被災した。クラウドファンディングで頑張っている。
- ・上水道が復旧したが下水が使用できない。公民館で水を汲みタンクにためて使用している。集会所のお風呂を使用しているが、都合のいい時間に使用できないことも多く、仮設住宅の知人のお風呂を借りている。自衛隊のお風呂が近々なくなってしまうので困る。
- ・地域の消防団もあるが今動ける人が3人しかいないため活動ができていない。
- ・神奈川から来た看護師さん。現場は疲弊している人が多く、ホッと出来る場所がない。サロンで甘いものを食べると安心できる。チラシ貰っていく。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・毎週のサロンが交流の場となりつつあるのを実感。震災や現状の生活の話より、震災前の趣味や楽しみの話が長く、非日常を感じられるひとときなのではと思った。
- ・ビラ配りで出会ったサロンに来ることが難しい高齢者やケガをされた方へのフォローが必要。
- ・地域の被害状況によって話題も変わる。仮設住宅に住まわれている方が多い地域は不安な話が多いように感じた。



各回のサロン実施報告（第5回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年5月22日（水）～5月25日（土）

■ボランティア参加者数：19名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月23日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	12名
5月23日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	17名
5月24日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	75名
5月24日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	45名
5月24日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	38名

■被災者の声（主なもの）

- ・週1回のサロンで近所の方の健康状態や状況を知って、自分も頑張ろうと思うきっかけになる。
- ・仮設住宅に住めるようになって安心したが、物音がするとまだ怖い。この生活がしばらく続くと思うと不安になる。
- ・サロンはいろいろな人との交流があって楽しい。一人で食べるよりここで食べる方が元気がでる。
- ・17年前の震災より今回の方が恐怖を感じた。前回リフォームしたところがまた崩れてしまった。
- ・大きな半壊の判定じゃないとなかなか仮設住宅に入れてもらえない。住める状態じゃないが無理矢理寝泊りしている。地震で日常が失われた。
- ・家が壊れたので撤去したいが、家族全員の同意が必要など手続きがわずらわしく進まない。
- ・やっとデイサービスが復活したので、仕事を休まなくてもよくなった。
- ・畑の作物がイノシシによって荒らされてしまった。レモンとミカンの栽培を行っているので、それが出来るのが楽しみ。
- ・海のごみが海外から多く流れ着いてきて大変。
- ・車がないと生活ができないので家よりも先に車を購入した。
- ・被災以前から過疎化、高齢化の問題があり、畑や農作地を譲りたくとも若者が地元にはいないのでどうしたらよいか。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・チラシ配りの際にボランティアへのねぎらいの言葉やサロンの開催が楽しみという声、またサロンには行けないがチラシを受け取る時にボランティアと話すと嬉しいとの声をいただいた。
- ・お寺があり、歴史のある街。地域愛を感じるお話をたくさん伺った。
- ・現状不安な部分の多くあるだろうが、住民の結束力は災害を乗り越える大きな要素だと感じた。



※ 北陸中日新聞（5/25）にふれあい喫茶が紹介されました。

各回のサロン実施報告（第6回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年5月29日（水）～6月1日（土）

■ボランティア参加者数：13名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月30日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋公民館	14名
5月30日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	38名
5月30日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	15名
5月31日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	57名
5月31日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	42名
5月31日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	32名

■被災者の声（主なもの）

- ・仮設住宅で一人暮らし。部屋は段差がなくてよい。足もとが寒いので畳をもらって床に置いている。
- ・以前は宇出津までのバスがあったが、今は1本もなく不便。車もないのでとても困っている。今日は移動売店が来て魚が買えたが、以前のように買い物ができない。
- ・震度1の地震でも続くと家が少しづつ歪んでいる。開いてた扉が震災後に徐々に開かなくなっている。
- ・オクラを作っているが収穫のタイミングで、カラスやタヌキにとられてしまう。
- ・金蔵のお米は山間地でストレスが少ないのでおいしいよ。
- ・6人家族で2DKの仮設住宅に住んでいて息が詰まりそう。サロンに来ると息抜きになる。
- ・地域の方たちが避難してバラバラだったけど、仮設住宅でまた一緒になれて嬉しい。私を含めて仮設住宅がなければ戻ってこなかった人もたくさんいると思う。
- ・近所の方が仮設住宅に移動した為、人がいなくなって寂しい。私も入りたいが入居条件に合わず半壊の家に住み続けている。サロンで皆に会って話しができてとても楽しい。
- ・お父さんとサロンにきたかったが、震災後あまり外に出たがらない。ずっと寝ていて心配。
- ・6月に仮設店舗で床屋を再開する予定が伸びてしまい気落ちしていたが、お客さんからお店を楽しみにしているという声を沢山もらって、10月再開を信じて体力づくりのために1時間歩いている。
- ・震災の時間の経過とともにニーズが変わってきている。今は災害ごみの撤去のボランティアが必要。
- ・家の取り壊しの申請をしているがなかなか順番が回ってこない。判定基準が分からず、自分より後から申請した人が先に対応されていてヤキモキしてしまう。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・コーヒーをお代わりして長く滞在される方が増えた。仕事の休憩に利用したり、友人と待ち合わせて一緒にいらしたり、遠方からわざわざサロンに来てくださる方もいて定着しつつあるのを感じた。
- ・お昼を一人で食べている方もいるので、時間を早めて開催してはどうだろうか。
- ・穴水音頭など皆で一緒に踊ったり歌ったりする場を今後のサロン活動に取り入れてもいいと思う。



各回のサロン実施報告（第7回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年6月5日（水）～6月8日（土）

■ボランティア参加者数：17名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
6月6日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋公民館	14名
6月6日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	34名
6月6日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	11名
6月7日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	50名
6月7日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	33名
6月7日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・いつ災害が来ても大丈夫なように、寝巻は着ず部屋着で寝ている。先日また地震があったので怖い。
- ・仮設住宅はものを多く持っていけないから、全壊した家の納屋に荷物を置いたままにしている。
- ・自分の家が全壊し、解体の手続きをしたいが心の整理がつかずなかなか進まない。
- ・春野菜を育てて寄り道パーキングで販売していた。今は自宅用のナス、トマト、かぼちゃなど。
- ・珠洲焼は人が集まって魚を焼いたり酒を呑んだりギターを弾いたりしながら1週間ほど焼き続ける。珠洲焼のように人は話をして協力していかないと生きていけない。こういうコミュニティは大切。
- ・この地震で沿岸部は大きなダメージを受けた。
- ・久々にこんなに笑った。来てよかった。前は能登半島、ズンドコ節を歌って楽しかった。
- ・避難生活していたため、自宅を確認しに来た市の職員に空き家と診断されそうになった。
- ・少しずつ家の中の片づけをしているが道が狭く車が入りづらい。運ぶのが大変。
- ・自分は仮設住宅に入れたが、親は準半壊で仮設の申し込み自体ができない。実態は住めないのに。梅雨時期や冬、今後が心配。
- ・草むしりが趣味で草からパワーをもらっている。
- ・学生ボランティアで参加。これまでは子供向けの活動をしていた。震災後、先生からサロン活動への参加を提案され、今日は有志8名で来た。活動は15時までだけど時間が過ぎてもいたい。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・地域のコミュニティが出来ていて、住民同志の情報交換の場になっている。楽しく交流できる場を提供することこそが活動の醍醐味だと感じた。
- ・全壊した家の隣で畑の手入れをしている方に出会い、震災の後も止まらない、止められない生活があってそれが生きがいになっていると感じた。テレビからは伝わらない光景だった。
- ・高校生がボランティアに参加してくれた。ボランティアと住民とが会話するきっかけになるようなオリエンテーションがあればいいと思う。



各回のサロン実施報告（第 8 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 6 月 12 日（水）～6 月 15 日（土）

■ボランティア参加者数：15 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
6 月 13 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋公民館	5 名
6 月 13 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	27 名
6 月 13 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	15 名
6 月 14 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	55 名
6 月 14 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	36 名
6 月 14 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	40 名

■被災者の声（主なもの）

- ・買い出しは週一回分購入する。兜に魚屋さんがあるので、助かっている。
- ・病院が毎日開いていたが、地震後一旦閉まり今は週 2 回になった。
- ・震災の時にたくさんの仏像が倒れて壊れたので、写真を頼りにコツコツ補修している。乾かすために床に並べておいたが、先週の地震でまた壊れてしまったので今は寝かせて置いている。
- ・仮設のお家に同じ花を置いている。花が一番よい。
- ・コシヒカリとノトヒカリを作っていたが、水路が直ってなくて田んぼに水が引けないから今年は田植えをあきらめた。
- ・仮設住宅は暑くて、風通しが良くない。防犯対策で施錠をするよう注意されるが、室外機の熱風がきて暑くて締めきれない。
- ・これから災害ごみを捨てに行くところ。何遍やっても減らなくて大変。
- ・家が全壊して早く解体してほしいけど道路側に倒れてないからまだ撤去してもらえない。母が壊れた家を見て毎日泣いている。
- ・畑はシカやイノシシの被害が多くて大変。電気柵などで対策している。
- ・阪神大震災の時に被災したお友達から「自分たちも復興できたので、必ず復興できるから頑張って」と励ましのメッセージをもらってとても勇気がわいた。
- ・まさか自分が被災するとは、支援を受ける側になるとは思ってもいなかった。東京から来てくれて大変ありがたい。このことは絶対忘れない。自分も必ず返せるように頑張ります。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・震災当時の話より今の話を聞くことが増えた。庭に植えたい花や野菜話とかこれからやりたいことを話してくれた。
- ・地区の住民の方々全体でボランティアを受け入れてくれているような優しさを感じた。
- ・囲碁や将棋大会物づくりなど男性の方が参加しやすくなるようなプログラムがあるとよいと思う。



各回のサロン実施報告（第9回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年6月19日（水）～6月22日（土）

■ボランティア参加者数：20名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
6月20日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	4名
6月20日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	21名
6月20日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	16名
6月21日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	61名
6月21日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	30名
6月21日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	29名

■被災者の声（主なもの）

- ・甲と諸橋の駐在所がなくなって、機能が穴水署に一括される。
- ・震災ごみの廃棄をしているとき、海外の女性と思われる方からカタコトの口調で「お金あげるから（捨てる物を）ちょうだい」と言われた。自分だけでなく周りも後をつけられ同じことを言われた。
- ・庭の草刈りが大変だが、今年はやらない（やれない）。
- ・公費解体が始まるが、以前と風景が変わってしまうと悲しい。
- ・仮設にいと誰とも話せない。ここに来るとみんなと話せてたのしい。
- ・自分の家は影響がなかった。みんなに申し訳ない。
- ・前回の地震で耐震補強をしたが今回も壊れた。家屋診断をしてもらったが結果に納得できず、2回目の診断を依頼した。
- ・部屋が片付いていない。ボランティアに協力してもらったが2階の荷物を下せていない。
- ・仮設に男性の集える場がなくさみしい。人とのつながりがなくなった。
- ・腰が曲がっている様子をあまり見られたくないからサロンに行きたくない。
- ・仮設入居の優先順位や役所に声を掛けられる方と掛けられない方の差がわからない。家が壊れているが現在も住んでおり、コンパネやブルーシートなどでふさいでいる。
- ・仮設のIHが使いにくい。ボタンが分かりにくく、少し押しただけで点火してしまう。
- ・90代の親と同居しているが、体調が悪い。仮設にいくこともできず家から出られない。
- ・風呂に入っているときに地震が来るのが怖く、今でも入るのが怖い。入るときは扉を少し開けて入っている。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・家族のほとんどが土砂崩れで亡くなった話をされていたが、時間がたったせいか気持ちを消化するような表情で話されていた。
- ・足が悪く参加できない住民にホットケーキを届けた。笑顔が見られてよかったと思う。
- ・街中で井戸端会議をしているグループをしばしば見かけた。来訪者には常連が多く、皆仲がよさそうだった。



各回のサロン実施報告（第10回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年6月26日（水）～6月29日（土）

■ボランティア参加者数：20名

■サロン実施場所および被災者の参加者数（実施場所が2か所増えました）

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
6月27日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	14名
6月27日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	33名
6月27日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	31名
6月27日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	13名
6月28日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	30名
6月28日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	33名
6月28日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	32名
6月28日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・輪島の朝市は漁師が捕った魚が並んでいたが、漁に出ることが出来なくて今後は心配。仕事がないから金沢に稼ぎに出ている。
- ・過疎化と高齢化が進んでいる。若者は戻って来るだろうか。こっちに移住してこないかい？
- ・とてもサロンが助けになっている。みんなで集まれる場があって嬉しい。
- ・屋根の修理が追い付かない。地元の大工は1年待ち。県外の業者が営業に来るけど、詐欺が怖くて警戒してしまう。石川の職人に頼みたいが地元で大工が足りない。
- ・自分では住めると思っていたけど査定で全壊と言われてしまった。本当はつぶしたくない。悔しい。
- ・ニュースで能登の地震の情報を見ても、字幕だけで寂しくなった。復興は進んでも、自分の心の整理が追い付かない。
- ・孫が陸上をやっていたが、練習場に仮設住宅が建ってしまって悲しい。
- ・仮設に住んでいるとコミュニケーションがとりづらいので、こういった機会があるのはありがたい。
- ・水が出ないからレンジでチンするごはんが助かる。
- ・アパートは大丈夫だったけど、両隣りの家が震災で寄りかかってしまい、中に入れない。持ち主と連絡も取れず頭を抱えている。
- ・地震がまた来るかもしれないけど、景色がきれいだからこれからも住みたい。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・いつも瓦礫撤去など作業系のボランティアをやっていて、今回初めてサロン活動に参加した。サロンに人がたくさん集まることに驚いた。
- ・チラシを見て7月以降もやってくれるということで感謝していますという声をいただいた。
- ・耳が不自由な方がいらっしゃって、スマートホンで文字を打って意思疎通を図った。



各回のサロン実施報告（第11回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年7月3日（水）～7月6日（土）

■ボランティア参加者数：16名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
7月4日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	10名
7月4日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	32名
7月4日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	21名
7月4日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	23名
7月5日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	20名
7月5日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	58名
7月5日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	31名
7月5日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・漁に出られないのがつらい。家族から海の中も隆起したりしていて座礁する可能性があるのでは海に出るのを止められている。七浦の船はどうなっているのか情報がなく分からない。
- ・震災前に高齢を理由に免許返納したが、店が遠くて買い物に困っている。近所にスーパーが開店するのを心待ちにしている。
- ・この家を売り払うつもりだったが修理するために月に何度か京都から通っている。将来は、ここでみなさんにお茶を出したい。
- ・公費で家の解体が始まった。粉塵がひどくてつらいが、我慢している。家がなくなることは悲しいがすっきりした。
- ・仮設住宅にエアコンが1台しかないので暑い。もう1台つけたいが、お金がかかるので悩んでいる。
- ・サロンの開催が毎回楽しみ。みんなと会うのが楽しい。一週間ぶりに家族以外の方と話した。ボランティアが帰っていくととても寂しく感じる。
- ・家屋が倒壊して3ヶ月間一人で家を片付けていた。腰痛になりボランティアセンターへ連絡して手伝ってもらった。お願いするのが申し訳なくて遅れてしまった。
- ・子どもがいなくなりました。前は学校があったのになくなってしまった。
- ・こうやって話をすることで自分も前を向くことができるわ。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・「毎週来られるのはわかっているから、もうチラシはいらなよ。」と言われた。サロン活動が地域に定着しているのを感じた。
- ・ボランティアによる紙芝居とゲームを開催。笑顔と一体感が生まれました。
- ・話を伺った女性が生まれてからずっとこの地域に住んでいるそうで、この土地が本当好きなんだなと感じた。集会場から見える海の景色が素晴らしかった。ボランティアに行き逆になんか力もらった。



各回のサロン実施報告（第12回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年7月10日（水）～7月13日（土）

■ボランティア参加者数：13名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
7月11日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	13名
7月11日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	29名
7月11日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	26名
7月11日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	15名
7月12日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	20名
7月12日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	56名
7月12日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	28名
7月12日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	29名

■被災者の声（主なもの）

- ・この1週間、家族以外と話さなかった。家にこもりきりになってしまうから毎週サロンは出かけるきっかけになる。ここに来るのが楽しみ。若い人の顔が見えるのがうれしい。
- ・今日地震があって心臓がバクバクしてお昼が食べられなかった。だからサロンにホットケーキ食べにきた。
- ・震災前にあった洋品店が撤退してしまい、服が買えないから自分で作ろうと思っている。
- ・明治時代からの自宅を解体することになった。先祖代々の家だから解体はしたくないが仕方がない。
- ・地盤沈下によって海面が上がり冠水がひどい。天気が良い日も長靴を履いている。
- ・震災前に比べてお店が少なくなった。土曜日に大型スーパーが再開するから楽しみ。オープンの日には混むだろうね。
- ・祖父母名義のままの家が被災したため、名義変更の手続きが必要で解体が進まない。被災に関する手続きが大変すぎる。緊急時なのに…。今後の見通しが立たない。
- ・田んぼの用水路が壊れて修理していた。なんとか田植えには間に合った。この辺はコシヒカリとノトヒカリを作っている。震災で納屋が壊れて、機械が潰された家も多い。
- ・まだ水が止まったままなので、水のめどが立ったら家を建て替える予定。
- ・家の修理を業者に頼むと高いので、自分でやれるところは自分で修理している。申請のために見積もりを依頼しているが、大工さんも忙しくて全然見積もりがこない。
- ・船が震災で流れてしまった。主人はまた漁に行きたいようだが、行ってほしくない。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・年齢の話になり、自分（ボランティア）と同年の男性がいた。お互い頑張ろう！と話し合った。
- ・来月、完成した仮設住宅に新たに入居される方がいるのでサロンに参加しやすいような工夫が必要。
- ・高齢者が多い地域なので、このサロン活動が高齢者の見守りや体調把握の機会にもなっているようだ。



各回のサロン実施報告（第13回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年7月17日（水）～7月20日（土）

■ボランティア参加者数：11名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
7月18日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	16名
7月18日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	25名
7月18日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	14名
7月18日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	16名
7月19日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	17名
7月19日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	53名
7月19日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	27名
7月19日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	36名

■被災者の声（主なもの）

- ・サロンが毎週楽しみで、近況報告する場になっている。サロンのおかげで1週間楽しく過ごせる。
- ・今回の地震で壁などが崩れて公費での修繕を申請したが、地滑りが要因では補修対象外とされ認められなかった。自費で直すしかない。余震もまだまだ多く、震災時にはなかった亀裂を見つけた。
- ・犬がいるから避難所には入らず、車で生活していた。早めに仮設に入れたのでありがたかった。熊本も仮設住宅が解消するのに何年もかかったみたいだから、そのくらい長期で考えなきゃいけないわよね。
- ・北海道の子どもの家に5ヶ月いて、早く帰りたいと思っていた。門前に帰って友達と会えて涙が出た。
- ・石川出身の力士の活躍がとても楽しみ。場所中は3時からテレビにくぎ付け。
- ・家庭菜園でトマトが育つのが楽しみ。自分たちで食べる野菜は全部自分たちで育てているのよ。
- ・寄道パーキングの店で毎年サザエ祭りをやっていたが、入荷が困難な状況なので今年はジャガイモ祭りをやるそう。
- ・家の片付けにボランティアを頼んだが、全壊判定になったので入ってもらえなくなった。
- ・郵便局が休業中。手紙を出すのに穴水町まで行っている。
- ・体が地震を覚えているんだよね。だからちょっとの振動ですぐに「地震？」と思ってしまう。
- ・仮設住宅はエアコンと扇風機をつけても暑い。一間で家族と過ごしているからストレスが溜まる。
- ・以前は散髪屋をやっていた。今は仮設住宅の玄関で散髪してるのよ。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・仮設住宅に入り生活が落ち着いてきたと同時に、震災前の生活と比べて不便に感じる事も増えてきたのではないだろうか。
- ・自己紹介で自分の住んでいる地域について話したことが、その後地元の方との会話につながった。地震や今の暮らしとは関係のない話で盛り上げられるのもボランティアの強みかもしれない。
- ・単身の高齢者の方々が声を掛け合ってサロンに来られている様子が伺えて良いと思った。



各回のサロン実施報告（第14回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年7月24日（水）～7月27日（土）

■ボランティア参加者数：12名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
7月25日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	19名
7月25日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	23名
7月25日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	20名
7月25日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	14名
7月26日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	16名
7月26日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	55名
7月26日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	25名
7月26日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	36名

■被災者の声（主なもの）

- ・一人で仮設住宅に住んでいるからここに来るのが楽しみで、毎週来ている。仮設住宅は静かすぎて夜になると不安で眠れなくなる。
- ・定年退職してUターンで穴水に移住してすぐに震災があった。でも景色がきれいだから離れられない。
- ・仮設に入居して器具の使い方が分からなくて困ったけど、周りの若い入居者の方に教えてもらった。
- ・3月に家の取り壊しがあり、家族の写真を保管しておくか迷った。古い写真はアルバムごと仮設に持ってきた。
- ・買い物に行くためのバスが一日一往復しかない。農協が出張販売をしてくれるのでありがたい。
- ・昨日の大雨警報で玄関まで水がきて不安になった。避難指示が出て何を持って行けばよいかわからなかった。
- ・家の修理に大工さんが全然来てくれなくて困っている。大工さんも忙しいから仕方がない。
- ・来週カヤックをやるから子どもたちに海上から隆起した海岸を見せてあげたい。
- ・仮設住宅にはテレビが1台しかないの、私はドラマを見たいのに旦那が野球を見るから見れない。
- ・美味しい米粉のパン屋さんがあるよ。地元の人みんな知っている。
- ・家の取り壊しが決まった。庭に植えた花はどうなるのだろう。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・友達には話づらい気持ちをボランティアに打ち明けてくださることがあり、外部の人間だからこそ受け止められることがあると感じた。
- ・震災から半年過ぎても道路に岩が残されていたり、道が盛り上がったまま修復されていない箇所もあり、復興の難しさを感じた。



各回のサロン実施報告（第 15 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 7 月 31 日（水）～8 月 3 日（土）

■ボランティア参加者数：18 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
8 月 1 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	8 名
8 月 1 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	23 名
8 月 1 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	13 名
8 月 1 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	15 名
8 月 2 日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	13 名
8 月 2 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	60 名
8 月 2 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	28 名
8 月 2 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30 名

■被災者の声（主なもの）

- ・発災後、公民館で 100 日間の避難生活。今は仮設にいるけど 2 年で出ないといけない。自分なんて今更どこに住んでもよい。でも、これから住むなら巡回バスとか走っている年寄りが住みやすいところで生活したい。
- ・家族が家にいるため、家のこともしなくてはいけないと感じており、今まではサロンの存在は知っていたが、自分だけ楽しんでいいのかと思い、参加できなかった。今回初めて参加した。
- ・震災後、1 回も美容院に行っていない。1 回もメイクしていない。
- ・夫が死んで孤独死するところだった。このサロンの手伝いをさせてくれてありがとう。門前のじじばばをありがとう。
- ・震災で近くのデイサービスが閉鎖され、隣町まで行っているが、知り合いがいなくなってしまった。
- ・解体したけど、地盤沈下と津波の影響で自分の土地に海水が入ってきてしまったため、家が建てられない。今後どうしようか困っている。
- ・歌が歌えて楽しかった。お互いに話をする機会は比較的ある。でも、大声で騒ぐ機会はありません。たぶん被災後で初めてじゃないかと思う。
- ・地面が凹凸しているのを見ると、心が不安になって体調が悪くなる。でも、病院には行っていない。
- ・仮設住宅に住んでいると、遠くから来てくれた親戚や知り合いが泊まる場所がないので、今年のお盆はどうしようか悩んでいる。
- ・お祭りができない。担ぎ手がないから、もう続けることができないかも。
- ・県外の子どもに同居をすすめられたが、80 年生きてきたこの土地を離れられない。最後までここに住んで、死にたい。
- ・仮設には娘と二人で住んでいる。移動の足がないから、娘が車を出してくれないとどこへも行けない。
- ・全壊なのに撤去の手続きを待たされている。早くしてくれないと、生活が前に進まない。待っているのがつらい。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・ひと時だけだったとしても、震災被災者として同じ経験をした者同士つながっていることについては、皆さん喜んでおられる様子でした。
- ・サロンに来ている人も大切だが、来ていない人、来れない人がどうしても気になる。何かしら「見守っている」ということを伝えることは必要ではないかと感じる。

各回のサロン実施報告（第16回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年8月7日（水）～8月10日（土）

■ボランティア参加者数：22名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
8月8日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	12名
8月8日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	25名
8月8日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	19名
8月8日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	14名
8月9日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	16名
8月9日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	52名
8月9日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	30名
8月9日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・毎週サロンを楽しみにしているの。近所で「明日よ～」って声を掛け合っているのよ。じいちゃんに今日も行く？と聞いたら行くって。先週たくさん話を聞いてもらって楽しかったんだと思う。
- ・病院に行くバスが少ない。車での移動中、バス停で待っている人がいたから、病院まで乗せていった。タクシーは呼べるけど毎回の利用は控えている。
- ・自宅が全壊。いつもならお盆は家族が集まるけど、今年は仮設だから狭くて呼べない。
- ・以前はナマコがいっぱいとれていたが震災後にとれなくなった。地盤沈下が影響したのか。昔はこんなことなかったのに。
- ・80代夫婦で仮設住宅に入っている。みんながすごく気にかけてくれるから、前にいたところよりも居心地がよい。一人で家にいても安心していられる。
- ・6カ月経っても、家の状況が何も変わっていない。崩壊した自宅を見る度に涙ぐんでしまう。
- ・火・木・金に移動販売が公民館にきて、買い物ができる。明日はお豆腐屋さんが来る。
- ・危険と判定された家に一人で住んでいる方がいて心配。妹さんがたまに来てくれるようだけど。周りの人たちで引っ越したらと言っているが、ここにいたいと離れない。気持ちはわかるけど心配。
- ・商店街があるけど、若い店主が少ない。前回の震災の時は再建したけど、自分たちの年齢を考えると再建すべきか悩んでいる。
- ・地元の人たちが少し若い世代のサロンを自分たちで開いてやっている。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・ボランティアがいないと、気をつかって震災にまつわる話をしてくれている感じがした。思い出話など楽しい話題の方が気分転換になるようだ。
- ・相手に対する共感の仕方には注意が必要だと感じた。根底に寂しさがあるように感じた。



各回のサロン実施報告（第17回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年8月14日（水）～8月17日（土）

■ボランティア参加者数：20名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
8月15日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	5名
8月15日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	14名
8月15日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	14名
8月15日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	14名
8月16日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	18名
8月16日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	50名
8月16日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	26名
8月16日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	25名

■被災者の声（主なもの）

- ・一人で住んでいてポストにサロンのチラシが入っていた。近所の人に勧められて来た。
- ・息子が金沢市に住んでいて、家の片づけに毎回2時間以上かけて通って来て大変だった。
- ・避難所に2、3か月いて足腰が弱った。エコノミー症候群にならないように気を付けている。
- ・震災前は大きい家に住んでいた。仮設住宅は狭くて、生活音に気がつかう。家がなくなって生きる勇気がなくなった。
- ・主人が休みの日に海に潜ってサザエを採っている。
- ・先月まで加賀に避難していて、戻ってきた。今は自宅の片づけをしている。
- ・通院していた歯科医院が閉院していたので不便だった。最近診てもらえる様になって安心した。
- ・地震前と後では風景が変わってしまった。みんな家のことで精一杯で農作業まで手が回らないのでは？
- ・ボランティアがプランターと種を持ってきてくれてゴーヤを植えた。
- ・「穴水音頭」は誰でも歌えるし踊れるよ！
- ・中居の友人宅に行ったら、外見は無事だが室内は物が散乱していて片付けもままならない様子だった。また会いに行きたいけれど、ただ会いに行くのは迷惑かなと感じて声を掛けにくい。
- ・他県ナンバーの車を見ると怖いと感じる。
- ・能登は海と山があっていいところだよ！星が綺麗なんだよ。今度は旅行で来てよ。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・住民同士のコミュニケーションが間違でサロンが賑わっていて、『交流の場づくり』という意味合いを強く感じた。これまでの活動の積み重ねで今の状態になっていると思う。次のステップに進んでもよいのではと思った。



※ 正願寺で開催された2,200本のろうそくを灯す『祖霊のともしび』のお手伝いをしました。

各回のサロン実施報告（第 18 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 8 月 21 日（水）～8 月 24 日（土）

■ボランティア参加者数：18 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
8 月 22 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	11 名
8 月 22 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	24 名
8 月 22 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	16 名
8 月 22 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	14 名
8 月 23 日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	13 名
8 月 23 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	43 名
8 月 23 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	31 名
8 月 23 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	32 名

■被災者の声（主なもの）

- ・自宅に住む方と仮設住宅に住む方では、仮設の方が情報が得やすい。このサロンで情報収集ができて助かっている。
- ・ここに来て話すと元気になるわね。家に 1 人でいるとテレビを見るくらいしかないし、しゃべらないけど、ここに来るとみんないるから。
- ・前は 12 畳の部屋に 1 人で寝ていたのに、今は仮設住宅の 4 畳半に夫と寝ている。とにかく、狭いところが辛い。息苦しい。
- ・震災で家の一部が倒壊したが子供や孫が 1 ヶ月ほどいて修復してくれた。屋根もブルーシートで覆ったり、トタンで雨漏りしないようにしてくれた。
- ・家は半壊になったが、知り合いの大工さんに修復方法を教わって日曜大工で直しながら住んでいる。子供のためにこの自宅を残したいから頑張って修理している。
- ・サロンで初めてココアオレを飲んだら美味しかった。来週からココアを頼むわ。
- ・震災で自分の家が激しく揺れている中でお向かいの家が崩れていくのを見た。今でも寝ているときなどにまざまざと思い出されて苦しくなる。
- ・夫が漁師だったけど震災で海岸が隆起して漁が出来なくなり、介護の仕事をするようになった。
- ・能登の様子を発信してほしい。ニュースでも報道されなくなり忘れられていると感じる。
- ・イノシシが畑を荒らして困っている。
- ・明治時代からある自宅に耐震補強をして、人が集まれる場所にしたい。お花や歌、ピアノが演奏できる場所に出来たらいいな。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・サロン活動を続けて欲しいという声をいただき、今後継続していくための支援をこちら側がどうサポート出来て、軌道に乗せられるかが大切だと感じた。



各回のサロン実施報告（第19回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年8月28日（水）～8月31日（土）

■ボランティア参加者数：19名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
8月29日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	6名
8月29日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	24名
8月29日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	12名
8月29日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	12名
8月30日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	21名
8月30日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	48名
8月30日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	37名
8月30日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	26名

■被災者の声（主なもの）

- ・仮設住宅に子供がいる世帯が住んでいて、子供の声がたくさん聞こえる。子供の声は元気が出る。
- ・自動車を持ってないと自由に出掛けることが難しい。年齢的に自転車に乗るのも厳しくなってきた。
- ・毎年帰省してくる孫が地震のトラウマで泊まらずに日帰りするようになってしまった。
- ・耳が遠くて補聴器が欲しいけど、足が悪くて補聴器を作るために病院に行くのも大変なんだ。
- ・昔は中居茶を作ってた、手摘みや手もみをしていたのよ。
- ・仮設住宅は狭くて息が詰まるので日中は半壊の自宅で過ごし、風呂と就寝は仮設住宅で過ごしている。
- ・地震は本当に揺れたら、テーブルの下にもぐるなんてとても出来ないし、近くの物にしがみつくのがやっとな。収まるまで待つしかないよ。これだけはあんたたちに伝えたいと思っていたんだよ。
- ・今日も震度3の地震があったので怖い。ヘルメットをそばに置いている。
- ・台風が近づいているけど仮設住宅は大丈夫だろうか。
- ・家庭菜園で育てたサツマイモが美味しい。でも猪が荒らしに来るので、来年以降は畑を続けられないかも。
- ・ここは自然がとても綺麗なのよ。海が青くて、紅葉も綺麗、牡蠣が名産だけど生産量が少ないから、よそにはあまり出回らないの。
- ・若いボランティアがスマートフォンのゲームを教えてくれて嬉しかった。
- ・公費解体の手続きが面倒だし時間がかかるので自費で解体した。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・「東京からわざわざ来てくれてありがとう」と言われ、逆に励まされた。地元の方々から感謝の言葉をいただけるのは、ボランティアが繋いで回数を積み重ねてきたからだ実感した。
- ・今後のサロン活動の展開に興味をもっている方が多かった。若者もどんどん活発に参加してくれると、サロンが自立していくきっかけになるのではないかな。



各回のサロン実施報告（第 20 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 9 月 4 日（水）～9 月 7 日（土）

■ボランティア参加者数：16 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
9 月 5 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	8 名
9 月 5 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	21 名
9 月 5 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	14 名
9 月 5 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	12 名
9 月 6 日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	20 名
9 月 6 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	36 名
9 月 6 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	32 名
9 月 6 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	38 名

■被災者の声（主なもの）

- ・初めてサロンに来たけど、こんなに人が集まっているとは思わなかった。みんなで同じものを食べるのでも、こうやって話しながらだと楽しいね。やっぱり人と話さないとな。
- ・釘を打つ機械、庭木を切る機械などいろいろ買っているとすぐにお金が無くなっちゃう。旦那がもういないから家のことはみんな一人でやっているの。
- ・仮設住宅のタンスが小さくて夫と 2 人分の服が全部は入らない。物を取りに行く時だけ自分の家に帰るがそのたびに悲しくなる。2 年で解体が終わるって話だけど熊本の地震も長く仮設に住んでいる人がいたし、私達もすぐには直らないだろう。
- ・田んぼの基盤整備をやっており、棚田を他の田んぼと繋いで一つの田んぼにして機械化し、未来の世代につなげたいと考えている。日本の風景 100 選に選ばれた美しい棚田を今後取り戻していく。
- ・一番困っていることは何？とよく聞かれるが、ありすぎて答えられない。今後の生活設計が不安。自宅が全壊で今は何も考えられない。
- ・自衛隊の大きい仮設風呂が撤退して悲しい。仮設住宅の風呂は狭くて使いづらいが贅沢は言えない。たまに親戚にもらい湯をしている。
- ・能登鹿島駅の近くには白い彼岸花が咲くのよ。
- ・昔はたまに星空が綺麗だなあと見上げることがあったけど、最近はないねえ。地割れなどが気になって下ばかり見て歩いているから。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・被災者の方が炊き出しのお手伝いに行っていて、「自分は被災者だから支援を受ける側」という意識がないことに驚いた。みんな地元が大好きで、強いコミュニティがあると感じた。
- ・サロン開催時だけではなく、チラシを配布しながら地元の方と話をするのも大切な役目だと思った。



各回のサロン実施報告（第 21 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 9 月 11 日（水）～9 月 14 日（土）

■ボランティア参加者数：20 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
9 月 12 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	9 名
9 月 12 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	15 名
9 月 12 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	12 名
9 月 12 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	12 名
9 月 13 日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	17 名
9 月 13 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	32 名
9 月 13 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	34 名
9 月 13 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	32 名

■被災者の声（主なもの）

- ・この場に来ると胸の重みが軽くなる気がする。今、何か不自由があるわけではないが 1 人でいると気が沈むのでこの場所はありがたい。
- ・昔は町の景観維持のために草むしりの声をかけると、十何人も集まった。今は 5、6 人しか集まらない。
- ・大きなエリアを集めて仮設住宅を用意するのではなく、今のコミュニティと同じ規模の小さい仮設住宅を増やしてほしい。
- ・眠れないので朝 3 時に家の周辺を周回している。
- ・仮設は別荘と思うと、上向きの気持ちになる。仮設にしていると新しく会う人と買い物に行けて楽しい。
- ・お墓を直すのに補助が出るのを知らなかった、情報が回りきってない。
- ・建築会社に勤めていたが、地震で会社が立ち行かなくなり、辞めてくれと言われてしまった。退職金、見舞金も貰えなかった。遠い場所から来た人には言えるが、周りの人には言えない。
- ・合唱をやっていたけど震災後できなくなっていた、歌を歌えてよかった。
- ・子供たちが独立してしまったので 1 人でご飯を食べている。話ができることがうれしい。あと 2 回で活動が終わってしまうのが寂しい。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・1 年後や、2 年後にも、その時の気持ちを吐き出せる場が必要だと感じた。こういった活動を可能であれば、可能な範囲で継続してほしいと思った。
- ・参加者の方同士が地震のことについて積極的に話し合い、ボランティアにも詳しい状況や制度について教えてくださる方が多かった。
- ・震災から 9 ヶ月が経過し、少しずつ前向きになっている部分も感じた。地域のコミュニティで話をしたことが貢献しているのかと思った。受け止める時間とこういう機会が大事。



各回のサロン実施報告（第 22 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 9 月 18 日（水）～9 月 21 日（土）

■ボランティア参加者数：20 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
9 月 19 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	10 名
9 月 19 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	20 名
9 月 19 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	19 名
9 月 19 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	6 名
9 月 20 日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	14 名
9 月 20 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	41 名
9 月 20 日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	29 名
9 月 20 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	32 名

■被災者の声（主なもの）

- ・震災前は畑仕事が忙しくて、手が回らず、犬の世話をしていなかった。今は時間が出来て、犬の世話ができています。今まで世話をせず、かわいそうなことをしていたと思う。犬と一緒に2か月避難した。
- ・まさか、自分が仮設に入ったり被災者になるとは思わなかった。子供には相手の立場になって考えなさいというが、初めての、まさかだった。
- ・サロンでみんなが話したり、笑顔でいる姿をみられて楽しいし、嬉しい。誘ってくれたから頑張ってきたことができた。おかげで楽しむことができた。
- ・建て替えするのにも膨大なお金がかかる。建て直したいと思っても、今の場所はまだ地盤が緩いからやめておけと家族に言われてしまう。
- ・自宅が壊れた時に、心が壊れた。このようなコミュニケーションの場は絶対に必要。ボランティアには本当に感謝している。
- ・私たちのためによくしてくれてありがとう。だけど自分はサロンへは行けない。被害状況が異なる中で、いろいろな人の話を聞くのは堪えられない。
- ・畑は無事だったが、道路が損壊したため機械を畑に入れることができなくなった。この歳になると、仕事を再開する気力がない。小さな頃から大きな家に住んでいたが、地震で家が倒壊したため仮設に住むことになった。仮設は狭すぎて心が窮屈。家にあった家財はほとんど捨てることになり、胸が痛んだ。
- ・仮設住宅では隣の音が全然聞こえない。雨の音も全然聞こえない。雨の跳ね返りの音、それだけ。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・参加者がボランティアとの出会いを大切にしている印象をうけた。
- ・回数を重ねることでだんだんと場が成熟してきたのか、日常生活を話し込んでいる姿が印象的だった。ボランティア側も気をつかわずいられるのがよかった。
- ・学生のボランティアのように若い人が来ることによって、住民の方が元気になっていると感じた。
- ・サロンを楽しみにしてくださっている方がたくさんいらっしゃることに驚いた。「本当にありがとう」「元気が出る」などの言葉をいただき、こちらが元気をもらって帰ってきた。



各回のサロン実施報告（第 23 回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024 年 9 月 25 日（水）～9 月 28 日（土）

■ボランティア参加者数：17 名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
9 月 26 日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	13 名
9 月 26 日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	24 名
9 月 26 日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	10 名
9 月 26 日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	6 名
9 月 27 日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	19 名
9 月 27 日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	43 名
9 月 27 日（金）	輪島市門前地区 門前東小学校の廊下	38 名
9 月 27 日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	水害により開催なし

※ 奥能登豪雨被害のため実施場所を皆月多目的集会所から門前東小学校の廊下に変更して開催しました。

■被災者の声（主なもの）

- ・大雨の中、仮設住宅の前の川に車や大きな木が流れていて、その流れの大きな音がとても怖かった。
- ・玄関まで水がきて、向こうの家は中まで被害があったよ。でも自然だから仕方ないね。
- ・サロンがあったおかげで地震からみんなの心が少しずつほぐれ、サロンの時間が大事だと気付き感謝しています。
- ・コーヒーは家でも飲めるのよ。でも、ここでみんなで顔を合わせて飲むのがいいの。
- ・81 歳の知り合いに“シャインマスカット”を作りたいと誘われて、ハウスを作る道具を栃木から来た大学生に運んでもらった。苗木も購入し、3 年後を目安に収穫できるようにしたい。
- ・退職金で家をリフォームしたのに、水害で台無しになってがっかりした。
- ・携帯の契約で七尾まで電車とバスを乗り継いでいったの。誰かに送ってもらえばよかったのになって言われたけど、行けたからね。まだまだボケとらんねって言われた。
- ・地震よりも今回の水害で地面が隆起した。
- ・12 月は雪が降るから復興が遅れるのではないか。
- ・能登半島と都会との賃金の格差があり、若者はみんな都心に行ってしまう。
- ・足腰は本当に大事だよ！健康には気をつけてね。
- ・どうかみなさん今後も能登に力を貸してください。
- ・この湾にはイルカもくるんだよ。次は是非、旅行で来てください。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・前向きになっていた時に水害があり、気持ち的に疲れている印象が強かった。
- ・コミュニティの力が強いを感じた。つながりを大切にしていけるような支援を行うことが大切だと感じた。また時間を作って、応援に来たい。



本プログラム終了後のサロンの動き

本プログラムは、支援活動が始める当初から支援終了後のことを想定して取り組んできました。私たちが取り組んでいる支援活動が終了したあとも、実施した地域でサロン活動が続いていくよう、単独での支援活動は行わず、必ず実施地域の団体と連携・協働してサロン活動を行うように努めてきました。

また、輪島市や穴水町の団体から「サロン活動に取り組みたい」との相談があり、サロン活動の実施ノウハウや物品・機材の提供・貸し出しなどを行いました。

一方、9月下旬に発生した奥能登豪雨により、これまでの状況が一変しました。予定では、10月以降、地元主体で実施していくはずが、豪雨を受け、改めて支援が必要となった地域もあります。10月以降は、上記の豪雨の状況を含め、引き続き支援が必要な地域には、CS-Tokyo が中心となり、TVAC も後方支援をする形で、サロン活動を継続していきます。

市町	サロン実施場所	今後の動き
輪島市	金蔵集会所	金蔵地区が実施主体となり、毎週木曜日にサロン活動を実施。 CS-Tokyo で月1回は実施をサポート。
	禅の里交流館	夢かぼちゃが実施主体となり、月2回金曜日にサロン活動を実施。 CS-Tokyo で月1回は実施をサポート。
	浦上公民館	9月下旬の大雨により公民館にも被害発生。11月以降、CS-Tokyo が実施主体となり月1回サロン活動を実施予定。
	皆月集会所	9月下旬の大雨により七浦・皆月地区にも被害発生。今後も CS-Tokyo が実施主体となり月1回サロン活動を実施予定。
穴水町	諸橋仮設団地／おにぎりサロン	CS-Tokyo が実施主体となり、月1回サロン活動を実施。
	兜公民館	CS-Tokyo が実施主体となり、月1回サロン活動を実施。また、地元の若者を中心とした支援団体のサロン活動を継続して応援。
	住吉公民館／能登中居鋳物館	支援団体やボランティアによるサロンを CS-Tokyo でサポート。
	志ヶ浦コミュニティセンター	CS-Tokyo が実施主体となり、月1回サロン活動を実施。

ボランティア参加者アンケート結果（抜粋）

- ・アンケート回答数（無記名含む）：295 件
- ・アンケート回答率：76%（ボランティア参加者数 389 人うち）

■サロン活動の感想

- ・「1 人でご飯を食べていても寂しくなる。みんなで集まって食べるのは嬉しいね。」とお話されていたのが心に残っていて、サロン活動のような支え合いの場づくりの重要性を実感しました。一人のボランティアができることは小さなことかもしれないが、東京に戻ってからでも能登のためにできることを考えて取り組んでいきます。
- ・週に一回のサロンを心待ちにしている方も多く、サロンの開催が集まるきっかけとなり、外に出ることに繋がっている。「サロンに来ると見慣れた顔に会えるので、無理に話さなくても居るだけで楽しい」とおっしゃっていたことが印象的でした。
- ・苦しい境遇の中でも誰かを意識したり、誰かのことを思う気持ちを持つこと、そしてそんな気持ちを周りに伝えられる場が必要なのだと思います。発災後の時期に応じてサロンの役割も少しずつ変わるか付加されるものがあるように感じた。
- ・瓦礫撤去や資材の運び出しとは違い、サロン活動はその成果をすぐに確認することができないが、継続することによって被災者の方々の生活に必要なものとなっていることが分かった。
- ・支援金の支給やバスの時刻などの情報交換の場として機能している様子が伺われた。
- ・活動中に震度 2～3 の地震があって、参加した方々が地震の怖い記憶を思い出し、より大きな地震が起きるのではないかと話されていて、サロンがその不安を吐き出し、共有する場として機能していた。
- ・これまでの活動のおかげで赤い帽子がサロン活動を行っている人というように浸透していることがわかった。継続し拠点拡大していくことが重要だと感じた。
- ・サロン活動では、継続することに意味や効果があるということ。また、知らない顔のボランティアの人ばかりの中から知っているスタッフの顔を見つけた時の被災者の方の安堵する表情を見て、繋げる人が必ずいることで安心して頂けることに気づきました。
- ・参加された方から「仕方がない」、「贅沢は言えない」の言葉を多く聞くたびに、国も自治体も一般の我々も寄り添い方が足りないと感じた。
- ・来てくれることだけでも有り難いと言う被災者の言葉が印象に残りました。
- ・旧知の方々と会えること、話せることの嬉しさが伝わってきました。楽しい場、おしゃべりの場を自分たちで持つのはまだ気が引けるところがあるようでした。心のケアをする中でとても重要な活動だと感じました。
- ・「今まで近くに住んでいて顔は知ってたが深く話すことがなかった方と、サロンがきっかけでお喋りすることができた」と聞き、サロンは孤立している住民をお互いにつなげる役割を果たしていると思いました。

■訪れた地域の印象

- ・実際に現地を訪れてみて、倒壊家屋や山体崩壊、ひび割れしている道路などが残っており、被災者の方々が元の生活に戻るには時間が掛かると感じました。
- ・震災から復興した後の再度の震災で、より厳しい状況であることを知りました。
- ・被災地は復興に向けて歩んでると思い込んでいたが、震災から半年経っても依然として余震があれば崩れてしまいそうな家や山、崩れたままの道があり、それだけ甚大な被害を受けたのだと改めて認識させられた。継続的な支援の重要性にも気付かされた。
- ・皆さんそれぞれの生活再建のスピードが違い、今後そのことでの軋轢や不安などが出てきて、コミュニティの形成が更に難しくなるのではないかと感じました。今回の活動も声から、そういった改善に繋がることを願いたい。
- ・もともとが過疎地での地震災害なので地域コミュニティ存続に必要なマンパワーが乏しく、仮設住宅の建設など帰村実現の環境整備が急務であることを改めて理解できた。
- ・海沿い、山間の小さな村などはほぼ何も手が付けられていない現状あり、村の方たちが仕事をしながら片付もし、慣れない生活を強いられている状況を目の当たりにして考えさせられた。
- ・チャリ配りの際に足が悪かったり、精神的な理由やでサロンに行けないとおっしゃった方がいて、サロンに参加されない（できない）方の様子が気になりました。長期の見守りが必要だと思います。
- ・現時点では住民同士の結びつきが強い地域であっても、今後、仮設住宅が増えた場合、地域の集まりに参加しない、出来ない方々をいかに交流の場に呼び込めるようになるかが課題である。これは我々ボランティアだけでなく、地域の人々同士で声かけ協力が不可欠となる。地域人々の信用と信頼を得られるよう、発言や行動にも留意しながら、意識して進めていくべきだと思う。
- ・サロン活動のボランティア全般で感じることだが、男性の参加率はとても低く、能登は他の地域よりも顕著に思えた。男性一人暮らしの高齢者の支援がよりいっそう大切になってくるのではないだろうか。
- ・能登の復興に関して、現地の方々の生活や家屋等の再建などの課題に加えて、さらに過疎化や高齢化、労働力不足などその先の将来的な問題も多くあることを実感した。
- ・仮設でも住み慣れた地域にいたいという声に驚いた。苦しい状況に置かれながらも、住み慣れた地域への思い入れや地域内でのコミュニティが大切なものであるということを感じた。改めて「復興」を急ぐ必要性やその重要性に気付かされた。
- ・地域の伝統文化や、今までの活動を地域以外の人へ伝えたい気持ちを知ると同時に、地元の方が今後の復興について語る様子に強い感銘を受けました。
- ・「今はこんな状態だけど本当はきれいなところ。今度は旅行で来てね」と言われ、郷土愛はもちろんのこと、被災地としてではなく、日本の素敵な場所のひとつとして輪島を見てほしい気持ちもあるのだらうなと感じました。

■ボランティアに参加しての感想

- ・今僕が生きているのは、当たり前じゃないと思いました。メディアでは報道されていないリアルや住民の声、現地に行かなければ知り得ないことが多くありました。被災地の住人達の温かさに涙したり、話を聞きながら涙を堪えたり、行政とそこに住む方々のギャップにもどかしさを感じたり、心が動く瞬間が多くありました。風化させてはならない、繋ぎ続けなければならないと本気で思っています。
- ・東京での報道は減っているが、現地では発災時から変わらない状況や、被災者の方々の記憶や感情、辛さを目の当たりにしました。まだまだ、復興の入り口にも遠いように感じました。引き続き、長期の支援が必要だと思いました。
- ・テレビや新聞で得る情報よりも、自分自身で見たり会話をしたりした事で被災とはどういう事かの理解が深まった。実際に被災者の方とお話をしなかったら、避難所での食事や仮設住宅の不自由さ、数ヶ月たった今の不安を知ることは出来なかった。話してくれた悩みや不安を解決出来ない自分の不甲斐なさや無力さも感じた。
- ・人が生活する上での地域コミュニティの重要性を再認識しました。特に非日常下においては安全かつ安心できる環境を早い段階で築ける事がとても重要だと被災者との会話の中から感じました。個人レベルの備えだけでなく、平時からの広域連携が被災時にどれだけ有効か、被災者の生活の一端を拝見させていただいた事でよりリアルに感じる事が出来ました。
- ・水道管を治せなくても重機を動かさなくてもこんな自分にでもできることはあるし、その行動一つ一つが大切なことを知ることが出来た。
- ・自分の住む地域の災害リスクとその対策について、普段から調べておくことが大切だと感じた。どこに住んでいても、被災する可能性の高い昨今、被災地支援は自らが被災者になった時のための非常に有効な「情報収集」であり、「予行演習」であると感じた。
- ・今まで参加したボランティアは主に家屋のケア、もしくは物質的サポート活動が多かったせいもあり、今回の活動を通して初めてメンタルケアの重要性を知る事ができた。
- ・テレビで見る光景は嘘ではなく現実で起きているという事を実感した。最初は映画を見ているようで心が受け付けなかったが、最終日に私たちが帰った後も現地の人はここで懸命生きてこれからも戦うんだと思い、酷い気持ちになった。
- ・復興が遅れていると感じる。もっと日本全体巻き込んでおくことが大事だと思った。
- ・南海トラフ地震や首都直下型地震でいつ自分たちが被災者になってもおかしくない。能登とはまた違った社会の構造をもっている東京で被災した場合はより多くの課題が山積しているのだと痛感出来た。得難い経験となりました。
- ・一緒に活動したメンバーと話をしたことも経験になりました。普段から災害ボランティア活動や福祉の活動をされている方のお話を聞いて、今後の参考になりました。
- ・ボランティアといえば力仕事や炊き出し等のイメージだったのですが、サロン活動という長期的な支援の仕方があることを知って大変勉強になりました。起きるであろう災害に備えていろいろな支援の方法を学びたいと思いました。
- ・支援に行きたかったけど、遠くて足踏みしていましたが、移動のサポートがあったおかげで参加しやすかったです。
- ・拠点の生活環境が整っており、安心して活動に集中できた。

東京での広域避難者支援プログラム
(東京に広域避難した方への支援)



東京での広域避難者支援プログラム

能登半島地震により、多くの方が故郷を離れ、他県へ避難しました。

東京への避難者は各地域に点在しているほか、都営住宅以外の公営住宅や親せきや知人を頼って避難している場合もあり、どのくらい避難者がいるのか、正確に把握することは困難でした。

そのような中、都内で避難者数の多い葛飾区では、社会福祉協議会が主体となり、3月に交流会が実施されました。交流会の企画・実施に当たっては、東京ボランティア・市民活動センターも協力し、それがきっかけとなり、6月には葛飾区社会福祉協議会と足立区社会福祉協議会の協力のもと、本パッケージによる支援の1つとして、足立区西新井住区センターで避難者交流会を実施しました。また、引き続き、9月にも葛飾区にて交流会を実施しました。交流会では、北陸地方の地元新聞や能登半島の地図、現地の写真など用意し、被災者の方に現地の最新の状況を知ってもらう機会としました。

(1) 第1回避難者交流会（葛飾区社協への企画・運営協力として実施）

○日時：2024年3月26日（火）

10時～11時30分

○場所：葛飾区新宿地区センター1階会議室

○参加者：

・避難者：4世帯7名

（珠洲市1世帯、能登町1世帯、輪島市2世帯）

・支援者：新宿4丁目団地自治会、民生委員、

葛飾区、高齢者総合相談センター

新宿地区センター、葛飾区社会福祉協議会

東京都生活文化スポーツ局、TVAC、

災害復興まちづくり支援機構

○内容：

①自己紹介

②交流会

③説明

・「現在の被災地の様子について」 東京ボランティア・市民活動センター：加納佑一

・「罹災証明の手続きについて」 災害復興まちづくり支援機構：箱石まみ

サロン 交流会

のんびりと同郷の皆さんとおしゃべりしませんか？

ようやく春めいてまいりました。
外に出るのが楽しくなるこの季節、ささやかではありますが、
同郷の皆さんとお茶会をひらくことになりました。
お茶やお菓子を楽しみながら、皆さんでお話をしませんか？

日にち：3月26日（火）
時 間：10時～11時30分
場 所：新宿地区センター
【地図：裏面】 1階 会議室

協力
●新宿地区連合町会
●新宿四丁目団地自治会
●新宿地区民生委員児童委員協議会
●新宿地区センター

お問い合わせ
●社会福祉法人葛飾区社会福祉協議会
ボランティア・地域貢献活動センター TEL. 03-5698-2511

(2) 第2回避難者交流会

○日時：2024年6月19日（水）

14時～16時15分

○場所：足立区西新井住区センター会議室1

○参加者：

- ・避難者：2世帯5名
（能登町1世帯、輪島市1世帯）
- ・支援者：葛飾区社会福祉協議会
足立区社会福祉協議会
東京都生活文化スポーツ局、TVAC、
災害復興まちづくり支援機構

○内容：

①交流会

- ・参加者の自己紹介、支援者の自己紹介
- ・災害復興まちづくり支援機構からの支援情報の提供
- ・交流、意見交換 ※能登半島の銘菓（ひっぱり餅）を用意

②情報提供コーナー

- ・北國新聞、北陸中日新聞の閲覧
- ・能登半島の地図や写真の閲覧

③西新井大使の散策

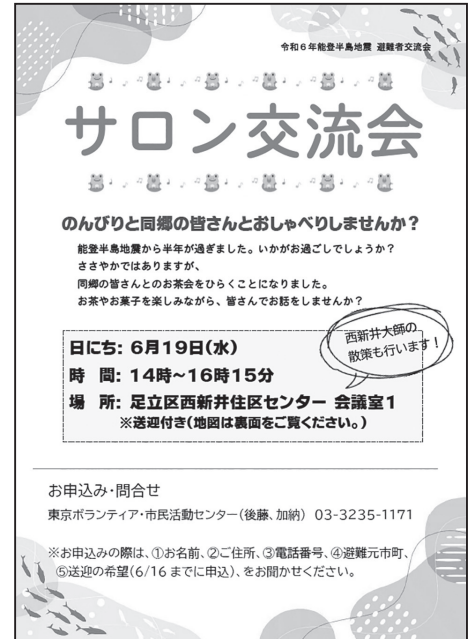
- ・西新井大使のご協力により、僧侶によるガイド付きで境内を散策した。

※避難者への周知は、住宅政策本部からのチラシの郵送、足立区区役所からのチラシの郵送、葛飾区社会福祉協議会の戸別訪問でのお誘い等にて行った。

※避難者の自宅近くから会場までの送迎を各社協による協力にて実施。

○避難者の声

- ・本当は能登にいたいですが、息子からは遠いと面倒が見切れないので東京にいてほしいと言われ、泣く泣く避難生活をしている。家は半壊。もうこの年では立て直して住むのは難しい。いろいろと仕方ないと思っている。
- ・こちらに避難してきてからは様々なところから声をかけてもらい、不自由はしていない。
- ・家は全壊になった。固定資産税の減免などが分からない。どこに相談したらよいのか教えてほしい。
- ・災害の前は親がデイサービスに行っていたが避難してからは行っていない。
- ・能登の人たちはおしゃべりが好きなので、東京で集まって交流できる機会があることはとてもありがたい。



(3) 第3回避難者交流会

○日時：2024年9月8日（日）14時～16時

○場所：ウェルピア葛飾

○参加者：

- ・避難者：4世帯6名
(珠洲市1世帯、輪島市1世帯、七尾市2世帯)
- ・支援者：葛飾区社会福祉協議会
東京都生活文化スポーツ局、TVAC、
災害協働サポート東京
災害復興まちづくり支援機構
石川県、輪島市、ボランティア

○内容：

①交流会

- ・参加者の自己紹介、支援者の自己紹介
- ・石川県復興推進部、災害復興まちづくり支援機構からの情報提供
- ・交流、意見交換

※能登半島の銘菓（ひっぱり餅、みそ饅頭）を用意

※ウクレレの演奏にあわせて「能登半島」を参加者とともに歌った

②情報提供コーナー

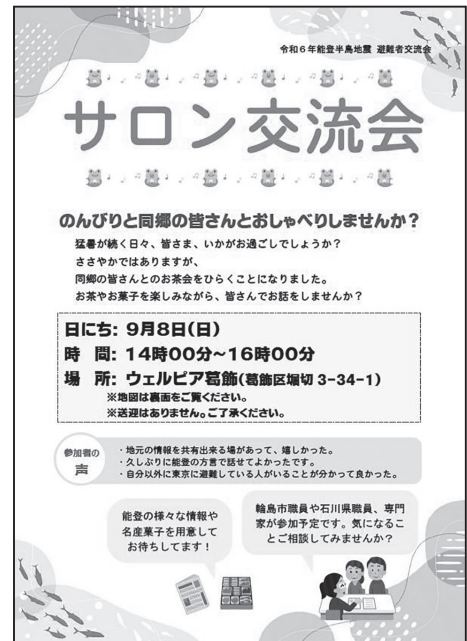
- ・北國新聞、北陸中日新聞の閲覧
- ・能登半島の地図や写真の閲覧
- ・各種支援情報

※避難者への周知は、住宅政策本部からのチラシの郵送、石川県からのLINEによる案内、葛飾区社会福祉協議会の戸別訪問でのお誘い等にて行った。

※避難者の自宅近くから会場までの送迎を葛飾区社協による協力にて実施。

○避難者の声

- ・能登の方言で話ができる機会がないので、嬉しい。
- ・都営住宅の期限が1年と聞いている。それ以降の入居は難しいのか。その後、どのようにしたら良いのか不安が大きい。
- ・公費解体の申請をしているが進まない。避難元の行政の窓口に行っても遅れている理由を明確には教えてくれない。その他、聞いてもたらい回しにされることがあり、困っている。



参考資料



ボランティア募集要項 ＜第 11 ～ 23 回＞

実 施 期 間	第 11 回 7 月 3 日（水）～ 7 月 6 日（土） ※ 以降毎週（水～土）実施 第 23 回 9 月 25 日（水）～ 9 月 28 日（土）（最終）
活 動 場 所	石川県輪島市、穴水町、七尾市（予定）
活 動 内 容	地域での交流・支え合いの場づくり（サロン活動）等 参考：https://www.tvac.or.jp/download/2dTWmZLcGHXL.pdf ※ 現地のニーズや状況を踏まえ、活動内容は随時調整していきます
行 程	3泊4日で、穴水町内の拠点に宿泊しながら活動いただきます。 なお、荒天や現地の状況によっては活動が一部変更・中止になる場合もあります。 ＜1日目＞ 7：45 東京駅集合 8：11 東京駅出発（かがやき 505 号） 10：29 富山駅到着 13：00 穴水町到着、現地視察、ガイダンス 18：30 活動終了（その後、ミーティング） 22：30 消灯（穴水町内泊） ＜2・3日目＞ 6：00 起床 8：30 活動開始 昼食 18：30 活動終了（その後、ミーティング） 22：30 消灯（穴水町内泊） ＜4日目＞ 6：00 起床 8：30 活動開始 昼食 11：30 活動終了 13：00 拠点出発 17：08 富山駅出発（かがやき 512 号） 19：20 東京駅到着
参 加 費	10,000 円（移動に係る経費の一部、食料費（実費）として） 参加決定後出発の 1 週間前（例：7/3 出発の場合は 6/26）までに、参加決定後に通知する口座に入金をお願いします。入金を確認できない場合は、参加いただけません。また、 <u>新幹線の手配のため、参加決定通知後の辞退はキャンセル料を一部または全額負担いただきます。</u> なお、自宅から集合場所までの移動費（往復）は別途自己負担をお願いします。
事 前 説 明 会	活動内容や注意事項等について説明する参加者向けの事前説明会を開催します。 出来る限り、活動日の 2 週間前までに参加してください。詳細は参加決定通知のメールにてご案内いたします。 日程：毎週水曜日（6/19 の週～ 9/11 の週）19 時～ 20 時 30 分 会場：飯田橋セントラルプラザ 12 階会議室（新宿区神楽河岸 1-1） ※ 8/21 のみ飯田橋セントラルプラザ 10 階会議室
募 集 人 数	各回 20 ～ 30 名程度（ただし、状況により各回の人数は変更となる場合あり）
募 集 対 象	18 歳以上の方 （注意事項） ・ 3 泊 4 日の現地での活動に耐えられる方の参加をお待ちしています。現地での活動や生活の環境には制約があります。 なお、募集人数に限りがあり、申し込み頂いても、ご参加いただけない場合があります。 ・ 事前に、ボランティア保険（天災・地震補償プラン）に加入してください。 団体による支援活動として業務で参加される場合は、必ず各団体にて賠償責任保険への加入について確認をお願いします（業務での場合、ボランティア保険は適用されません）。 ・ 必ず、事前説明会への参加をお願いします。 ・ 活動の意義・目的を理解いただき、安全を確保し、協調性を持ってチームで活動するなどルールの遵守をお願いします。 ・ 現地では車の移動（参加者乗り合いでの移動）があるため、運転免許証を持っている方を優先します。

申 込 期 間	各回	活動日	申込締切
	第 11 回	7 月 3 日 (水) ～ 7 月 6 日 (土)	6 月 12 日 (水) 12 時
	第 12 回	7 月 10 日 (水) ～ 7 月 13 日 (土)	6 月 19 日 (水) 12 時
	第 13 回	7 月 17 日 (水) ～ 7 月 20 日 (土)	6 月 19 日 (水) 12 時
	第 14 回	7 月 24 日 (水) ～ 7 月 27 日 (土)	6 月 26 日 (水) 12 時
	第 15 回	7 月 31 日 (水) ～ 8 月 3 日 (土)	6 月 26 日 (水) 12 時
	第 16 回	8 月 7 日 (水) ～ 8 月 10 日 (土)	7 月 10 日 (水) 12 時
	第 17 回	8 月 14 日 (水) ～ 8 月 17 日 (土)	7 月 10 日 (水) 12 時
	第 18 回	8 月 21 日 (水) ～ 8 月 24 日 (土)	7 月 17 日 (水) 12 時
	第 19 回	8 月 28 日 (水) ～ 8 月 31 日 (土)	7 月 17 日 (水) 12 時
	第 20 回	9 月 4 日 (水) ～ 9 月 7 日 (土)	7 月 31 日 (水) 12 時
	第 21 回	9 月 11 日 (水) ～ 9 月 14 日 (土)	7 月 31 日 (水) 12 時
	第 22 回	9 月 18 日 (水) ～ 9 月 21 日 (土)	8 月 14 日 (水) 12 時
	第 23 回	9 月 25 日 (水) ～ 9 月 28 日 (土)	8 月 14 日 (水) 12 時
申 込 方 法	①団体（3 名以上の団体）でのお申し込みの場合 東京ボランティア・市民活動センターにお問い合わせください。 ②個人のお申し込みの場合 都内の在住 / 在学 / 在勤にある区市町村ボランティアセンター（下記 URL）にお問い合わせください。 https://www.tvac.or.jp/notovbosyu.pdf		
参加決定通知	申込者全員に対し、各回申込締切の 2 日後の金曜日（例：6/12 申込締切の場合は 6/14）の 17 時までに、東京ボランティア・市民活動センターより参加決定通知をメールでご連絡します。なお、参加決定の状況はお申込みされた団体や区市町村ボランティアセンターと共有させていただきます。		
持 ち 物	☐ 1 日目の昼食・飲み物、着替え（寝巻含む）、タオル、洗面具、身の回りの生活用品、シーツ（上下）・枕カバー（または寝袋） ☐ 防寒具・雨合羽、軍手、エプロン（活動や食事で使用）、マスク ☐ 保険証（もしくはそのコピー）、ボランティア保険加入が証明できるもの、運転免許証（お持ちの方）、その他必要と思われるもの。		
宿 泊 環 境 等	・被災地の協力により簡易に寝泊まりできる拠点を設置しています。拠点は、ホテルや旅館ではありません。電気・ガス・水道が通っており、トイレ・シャワー（1 回程度、汗を流す程度。排水の関係でシャンプーの使用が難しい）は使用可能です。 ・1 日目（夜）、2・3 日目（朝～夜）、4 日目（朝・昼）の食事は自炊となります。 ・3 泊 4 日集団での共同生活であり、各種生活面において制約があるため、ご承知おきください。		
そ の 他	・詳細な行程や留意事項等については、別途参加者宛に案内します。 ・個人情報、東京都や協力団体（一般社団法人災害協働サポート東京）、旅行者、申込先の団体（区市町村社会福祉協議会、ボランティア・市民活動センター、団体・企業等）と共有いたします。また、個人情報は、各団体の個人情報保護規定および 東京ボランティア・市民活動センターの保護規定に準じて適正に管理いたします。		
問い合わせ先	東京ボランティア・市民活動センター 電話：03-3235-1171（火～土 9 時～ 21 時、日 9 時～ 17 時）		

ボランティアに対する事前説明会資料

Ver.11

能登半島地震被災者支援プログラム 事前説明会

19時～20時30分
 @飯田橋セントラルプラザ12階会議室
 東京都生活文化スポーツ局
 東京ボランティア・市民活動センター
 災害協働サポート東京

目次

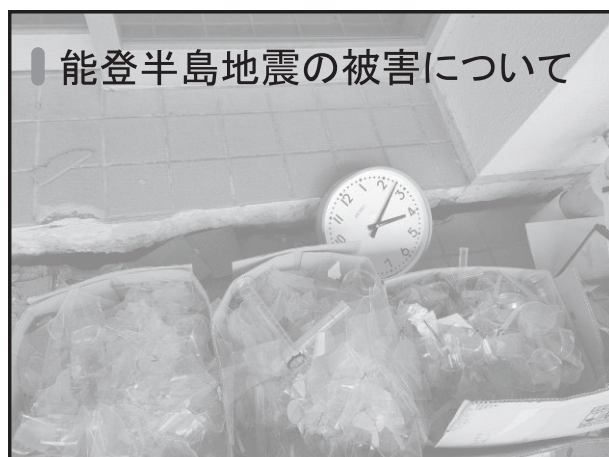
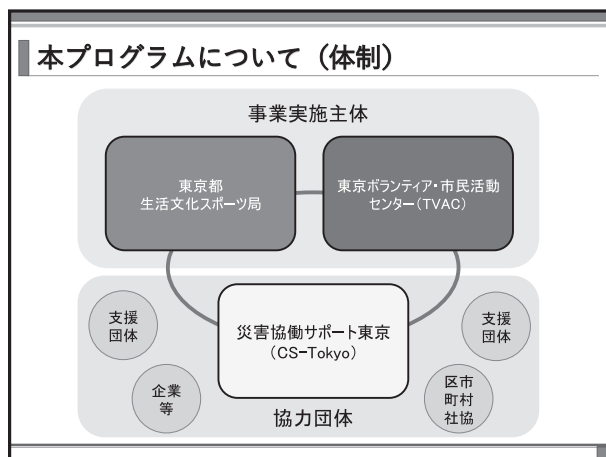
1. 本プログラムについて
2. 能登半島地震の被害
3. プログラムの行程について
4. 活動について
5. 宿泊拠点について
6. 注意事項

本プログラムについて（目的）

◆能登半島地震の被災者支援のため

- 活動内容は、地域での交流・支え合いの場づくり（サロン活動）です。
- 被災をして地域での交流が難しくなった地域、新たな交流が必要となる仮設住宅で被災者がほんの少しホッとできる場づくりに取り組んでいきます。
 - ・まずは被災者の方同士が励まし合ったり、心配し合える場を作ることが目的の一つ目。
 - ・次に被災者の方とボランティアが交流してエールを届けることが目的の二つ目
 - ・被災者の方の声を聞いて、それを支援に繋げていくことが目的の三つ目。

<これらの目的は常に覚えておいてください>



被害の概要（8月21日時点）

項目	被害数
人的被害	死者：339人（うち関連死110人）、行方不明3名 負傷者：1,211人 死者の内訳 【石川県】七尾市14人、輪島市142人（40人）、珠洲市122人（25人）、羽咋市1人、内灘町1人（1人）、志賀町7人（5人）、穴水町26人（6人）、能登町25人（23人） ※（ ）内は死者のうちの関連死者数
住家被害	8万2,578棟 全壊：5,910棟、半壊：1万6,231棟、一部損壊：6万6,426棟 床上浸水：6棟、床下浸水：19棟
避難所	市町村35か所455人、県避難所64か所375人
上水道断水	輪島市と珠洲市の早期復旧が困難な地区を除いて解消（5/31）

プログラムの行程について

集合時間・場所

■ 集合時間・場所

- － 時間：出発日の7:45
※遅れないようにお願いします
- － 場所：東京駅 銀の鈴（駅の地下）



能登被災者支援
プログラム
参加者集合場所

スケジュール

1日目（時間は目安）

時刻	内容	備考
7:45	東京駅 銀の鈴集合	
8:11	東京駅出発	
10:25	富山駅着	
10:40	富山駅出発	バスで移動
13:30	穴水町の拠点着	
13:40	オリエンテーション	拠点での生活の仕方など
14:10	被災地視察／拠点環境整備	輪島市、穴水町など
18:30	夕食	
20:00	ミーティング	翌日の活動について
20:30	翌日の活動準備／前期レポート確認	
22:30	就寝	

スケジュール

2日目・3日目（時間は目安）

時刻	内容	備考
6:00	起床	
7:00	朝食	
7:30	活動の準備	
9:30	拠点出発（活動先へ移動）	
10:30	（次週の）サロンの案内チラシの配布	
11:30	昼食	
14:00	サロン活動の実施	
16:00	サロン活動終了・片付け	
18:00	拠点到着（片付け・翌日の準備）	
18:30	夕食	
20:00	ミーティング及びレポート作成	
22:30	就寝	

スケジュール

4日目（時間は目安）

時刻	内容	備考
6:00	起床	
7:00	朝食	
8:00	被災地視察／拠点片付け	
11:30	昼食	
13:00	拠点出発	バスで移動
16:00	富山駅着	
17:08	富山駅出発	
19:20	東京駅着&解散	

・時間は、被災地や拠点の状況に合わせて変更する場合があります。

活動について



チームでの活動となります

- チームでの活動
 - 5名～7名のチームに分かれて活動します。
 - 3泊4日就寝以外は、このチームでともに動いていただきます。
 - チームに1人リーダーを決めていただきます。
 - 「サロン活動」以外に「拠点環境の整備（食事作り、掃除、ゴミ出しなど）」も担当いただきます。
 - チームでのコミュニケーションはLINEのオープンチャットを使用します。
 - チームで被災者の方と交流することになります。息の合ったチーム作りにご協力ください。

サロン活動について

- 被災地域での支え合い・交流の場づくり（サロン活動）
 - 今回の支援活動では、地域での支え合い・交流の場づくりとしてのサロン活動を実施します。人が集まって、互いに支えあったり、励まし合ったりする場づくりを大切にしていきます。
 - ・被災者の方同士の交流の場が最も大切。
 - ・被災者の方とボランティアの交流の場も大切。
 - この場づくり（サロン活動）は、被災地域内の住民の方々にもお手伝いいただきながら運営を進めていきたいと考えています。活動が終了する際には、住民の皆さんの手で運営できるような形を目指していきます。
 - ・すでにいくつかの場では、地域の方が運営に関わっています。

サロン活動について

- 車での移動
 - 拠点からサロン活動実施場所までは車（ハイエースもしくは軽バン）での移動となります。運転免許のある方は運転の協力をお願いいたします。
- 赤い帽子&名札&ワッペン
 - 活動時は赤い帽子をつけていただきます。
 - 名札は活動時、拠点にいるときも着用をお願いします。
 - 服に貼るワッペンをつけていただきます。
 - いずれも主催者にて用意いたします。
- その他
 - 活動中は写真撮影不可
 - SNSでの発信も制限させていただきます



サロン活動の実施場所について



- ・拠点となる穴水町から活動先まではおよそ40分～60分となります。
- ・活動先によって、道路状況が悪い場所、水道が出ない場所があります。

拠点について



宿泊拠点について



- 住所 石川県穴水町乙ヶ崎ア3
- 穴水駅から車で5分程度

食事について

- 1 日目の夜～4 日目の昼までは自炊となります。
 - － 拠点の環境整備チーム（日替わり）が食事作りを行います。食事のメニュー決め、参加者全員の食材の調達・調理、片付けを実施していただきます。
 - － 食材の調達にかかる食材費は主催者側で用意します。
 - － 食物アレルギーがある参加者がいる場合は、事前にお知らせ下さい。該当するアレルギー食品を入れないで調理を行います。
 - － 外食はできません。

拠点での生活について

- 活動や生活上の制限があります。
 - － 拠点は被災地住民の方のご協力でお借りしています。
 - － 建物 2 階や道を挟んだ所には住民（被災者）が住んでいます。大きな声で騒ぐなどしないようお願いします。
 - － 入浴やシャワーはなるべく入れるようにしますが、時間の関係上、3 泊 4 日で 1 回の利用となる可能性があります。また、排水の関係上、洗顔フォーム、ボディソープ、シャンプー等は使用できません。洗濯もできません。
 - － バスタオルなど干すスペースがありません。
 - － 拠点の中には Softbank 回線が入らず、au 回線も電波が良くないです。docomo 回線は大丈夫です。
 - － コンビニ等は近くにありません。原則、活動時以外の拠点敷地外への外出はできません。
 - － 電源コンセント 1 人 1 つあります。

拠点での生活について

- 活動や生活上の制限があります（続き）。
 - － 3 泊 4 日の中で外食は不可です。また、最終日の富山駅以外でのお土産などの買い物も基本的には不可とします（支援活動に集中していただくため）。
 - － 男女分かれて大きな部屋で就寝します。
 - － 拠点は幹線道路沿いにあるため、車の音が気になる場合があります。必要に応じて耳栓などお持ち下さい。
 - － トイレは男女で分かれています。女性は仮設トイレ（水洗）となります。
 - － 拠点の水道（井戸水）は飲むことができます。
 - － 飲酒不可、タバコは喫煙場所での喫煙となります。
 - － 発熱など感染症が疑われる場合は、速やかにご自身で帰宅いただくことになります。
 - － 単独での行動は、活動中含めて控えていただきます。

持ち物

- ・ 1 日目の昼食・飲み物
- ・ 3 泊 4 日分の着替え（寝巻含む）、タオル、洗面具、身の回りの生活用品、シーツ（上下）・枕カバー（または寝袋）、耳栓（必要な方）、ボディシート
 - 日用品等は事前に日数分用意してください。
- ・ 雨合羽、雨靴（長靴は雨天時使用望ましいが必須ではない）、軍手、エプロン（活動や食事で使用）、マスク、熱中症予防のもの（帽子や塩飴など）
 - 靴は脱ぎ履きがしやすいもの。
- ・ 保険証（もしくはそのコピー）、ボランティア保険加入が証明できるもの、運転免許証（お持ちの方）、その他必要と思われるもの。
- ・ トランクやキャリーバッグをお持ちの方は新幹線の棚の上に載せられる程度の大きさが望ましい。

最後に

- 注意事項
 - － ボランティア保険（天災プラン）への加入
 - － 緊急連絡先の入力
 - － 参加費の入金（振込先注意！口座名義を要確認！）
 - － キャンセルの場合はキャンセル料が発生します
- 緊急の連絡先（キャンセル等）
 - － 出発日前日までの連絡
 - ・ 東京ボランティア・市民活動センター
 - ・ 03-3235-1171
 - － 出発日当日の連絡
 - ・ 東京ボランティア・市民活動センター
 - ・ 080-8815-7208

協力団体

- 輪島市社会福祉協議会/穴水町社会福祉協議会/特定非営利活動法人 夢かぼちゃ/禅の里交流館/浦上公民館/能登 清水の里 穴水（おにぎりサロン）/諸橋公民館/兜公民館/穴水町甲復興団/輪島市町野金蔵地区/輪島市門前皆月地区/能登中居鑄物館/住吉公民館/災害協働サポート東京/株式会社 シムス/株式会社ニトリ/真如苑SeRV/シャンティ国際ボランティア会/株式会社ゼンリン/よりみちステーション/子ども村ホッとステーション/キーコーヒー株式会社/サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社/フードバンク愛知/株式会社 平野本店/東京都生活協同組合連合会/コープいしかわ/昭和生コンクリート株式会社/全国災害ボランティア支援団体ネットワーク/都内社会福祉協議会、区市町村ボランティア・市民活動センター参加いただいたボランティアの皆さま

ボランティアに対する活動前オリエンテーション資料

1 ゴミ

(1) 分類：下記の通り①～⑤に分けて、正面玄関入った所にまとめてください

※⇒以降はゴミ置き場でのゴミ出し方法です。

①燃えるゴミ：指定袋に入れる ⇒ すのこの上にきれいに並べる

※生ごみはコンビニ袋等にまとめた後、指定袋に入れましょう！

②プラごみ（回収日：第1火と第3水）：ビニール袋（指定袋なし）に入れる ⇒ 青いカゴ付近へ置く

※汚れているプラごみは、燃えるゴミ扱いでOKです！

③ペットボトル：中身ゆすいでラベルとキャップはずし。潰さないでOK ⇒ 青い回収袋に入れる

④空きビン：中身をゆすいでおく ⇒ 青いカゴに入れる

⑤空き缶：中身をゆすいでおく。潰さないでOK ⇒ 緑の回収袋に入れる

⑥金属類（カセットボンベ・ツナ缶など）、ガラス類、家電 ⇒ 拠点に保管

(2) ゴミ出し

土曜日の昼食後に保管していた当該のゴミ袋を、ごみステーション（穴水石油の隣）に持っていきます。

<注意事項>

- ・ガレージ内の燃える／プラごみは、ペール（蓋つき大きな青いバケツ）で蓋をして管理！
- ・使用済みガスボンベは穴を開けて保管
- ・ごみ置き場にもっていく前に、分類やペットボトル等の洗浄が済んでいるか最終確認
- ・ごみ置き場の扉は必ず閉めてください（動物が来ないように）

2 Wi-Fi

(1) スターリンク

SSID：STARLINK または KDDI PASS：●●●●●●

入る範囲：男性部屋、事務室、ガレージの半分くらい

(2) docomoWifi

SSID：FS030W_P773360 PASS：●●●●●●

入る範囲：女性部屋

3 就寝・起床

- ・就寝は22時30分です。22時30分になったら消灯してください。ガサゴソなしです。
- ・起床は6時00分です。それ以前はトイレ以外で布団から出ないようお願いします。

4 お風呂・シャワー

- ・サロン実施場所によって、サロン活動終了後、のとふれあい文化センターのお風呂に入れる場合があります（入浴料：500円）。シャンプー類は備え付けがありますが、タオルは要持参です。なので、サロン活動時は、とりあえず、タオルを持参しましょう。
- ・拠点のシャワー使用時は給湯器の電源を付けて下さい。終了後は必ず消してください。
⇒いつ使用してもよいわけではありません。スタッフの指示にしたがって、男女で時間を分けて利用します。入り口の扉に男女の使用状況が分かるよう表示があるので、使用時は必ずこれを活用ください。誰も入っていない時は、扉を開けておいてください。

5 トイレ

- ・女性トイレ（仮設トイレ）はトイレットペーパーのみ流せます。清掃用の流せるペーパー類はアウトです！詰まります！

- ・男性トイレは、流せるペーパー類も流せます。

6 喫煙

- ・ガレージ横のスペースのみで喫煙可です。

7 能登ノート・ボランティア出身マップ

- ・活動拠点滞在中にこれらの作成にご協力ください。

8 大まかなスケジュール

※ 起床：6時／朝食：7時／夕食：18時30分／就寝：22時30分は全日程で共通です。

時刻	内容	メモ
<1日目> 14:10～	・被災地視察 ・拠点整備（買出し）	
20:00～	ミーティング	
20:30～	翌日の活動準備	

<2・3日目> 7:30～	・サロン活動の準備開始 ・時間に余裕があれば、活動拠点の清掃を実施	
9:00～9:30	・拠点出発（活動先へ） ・午前中に翌週分のチラシを配布	夕飯担当班は、下準備等を済ませたのち、遅めの出発でOK
14:00～16:00	サロン活動	
18:00	拠点到着	
20:00～	ミーティング	
20:30～	翌日の活動準備	

<4日目> 8:00～	・集合写真撮影 ・被災地視察 ・拠点整備（清掃など）	
11:30～	昼食	
13:00～	拠点出発	
17:08～	富山駅出発	

サロン「ふれあい喫茶」の実施にあたって

<サロンの目的>

- ①被災者の居場所づくり：被災者同士がたわいもない会話の中でお互いの状況を確認しあったり、心配しあったり、励ましあったりできる場を作ること。
- ②被災者とボランティアとの交流：被災者の人たちが良く言うのは忘れられてしまうことが一番辛いということ。「毎週、○曜日に東京からボランティアが来てくれる」ということが励みになる。

<参加にあたってよくあるご質問>

Q1：チラシ配布はどのようにすればいいですか。

A：ポストへの投函でOK。ただし、仮設住宅の場合は風除室を開けて、呼び鈴を鳴らして声掛けをする。

Q2：サロンでは、何て声をかければよいですか。

A：なかなか声を掛けられない、緊張するのが普通。無理に声をかける必要はない。隣にいてだけでOK。世間話（天気の話、今日食べた朝食の話など他愛もない話で）でよい。緊張感があれば、声かけのミスは起こりづらい。悩んで、選んだ声かけであれば間違っでは伝わらない。

Q3：サロンでのコミュニケーションの注意点はなんですか。

A：必ず守っていただきたいのは「被災者の方との約束は絶対に守ること＝絶対に安易な約束はしないこと」。「また来ます。手紙を書くね」といった社交辞令はNGです。

Q4：参加者が多くて、サロンがまわらない場合はどうしましょう。

A：この取り組みは営利目的の、効率性を重視した喫茶店ではありませんので、焦る必要はありません。ホットケーキや飲み物の待ち時間が、住民同士やボランティアとの大切な会話の時間になります。ただし、あまりにもお待たせする場合は、ホットケーキミックスに少量の水を加えて、薄い生地にして焼くことで、時短してください。

<必要な事前準備>

- ①前回のレポート確認 ②サロンマニュアル確認 ③チラシ配布地図の確認／分担決め
- ④サロン用物品の確認 ⑤レンタカーに行き先（サロンマニュアル参照）登録

<レポートの作成>

- ・事務所にあるパソコンを使用し、レポートを作成いただきます。
- ・特に「被災者の声」の項目が大切です。客観的な内容として、被災者の方の発言をそのまま掲載ください。
⇒ニーズに上がってくるものは、それほど問題ない。住民の声をいかに拾えるか。それをニーズに仕上げていけるかが大切。皆さんは何気ない、何てことのない発言に感じても、支援団体、支援者が見ると、ニーズにつながる内容だったりもする。

<サロン活動中の注意>

- ・厨房（飲み物とホットケーキで2名）／注文きき／交流といった役割をみんながバランスよく担えるよう分担しましょう。
- ・具体的な困りごとの相談やヘビーな相談はスタッフまで。
- ・ゴミはもえるごみ（指定袋）とプラごみ（レジ袋）で分類を。生ごみはレジ袋に入れてから指定のゴミ袋に入れましょう。紙コップ・皿はなるべく重ねてかさを減らして捨てること。割り箸は、ごみ袋を突き破らないよう、紙コップに入れましょう。

<サロン活動後の注意>

- ・拠点戻り後、スポンジとふきん類は手洗いして干してください。ふきんは最終日の清掃に 使用した後に処分します。
- ・ホットケーキミックスやシロップ等の食品類（持っていくものリスト参照）は、グレーの保冷バックに入れて、スタッフルームに置いてください。

<その他の注意>

- ・サロン場所までの運転はくれぐれも安全運転をお願いします。依然として道路の状況がよくない地域もありますので、ゆっくりと慎重な運転をお願いします。なお、車のガソリンが少なくなってきたら、スタッフに連絡してください。
- ・車酔いする方は酔い止め薬の準備・服薬を忘れずに（持参し忘れた方はスタッフにご相談を）。助手席に座らせてもらいましょう。車酔いをした場合は、無理をせずに周りのスタッフ・メンバーに申し出て、しばらく休憩をとってください。
- ・くれぐれも熱中症にご注意ください！特にチラシ配布の際は注意が必要です！
⇒必ずチラシ配布の実施前／後に熱中症の初期症状が出ているメンバーがいらないか確認してください。少しでも体調が悪い場合は無理をせず、すぐに周りのスタッフ・メンバーに申し出ましょう。
⇒睡眠不足／栄養不足も熱中症の要因になります。しっかり睡眠・食事をとりましょう。
⇒細かな水分補給はもちろんのこと、各自ご準備いただいている熱中症グッズを活用ください。

サロン活動実施報告書様式

No. _____

活動	☐ サロン活動 ☐ 引き継ぎ ☐ チラシ配布			
実施日時				
チーム		記入担当者		
※地域名／施設名	○○/●●			
※この地域・施設での実施回数		回目		
プログラム内容				
※参加者数	被災者 名	スタッフ 名	ボランティア 名	その他(関係者や支援団体など)名
活動時の様子				
住民の声				
所感				
連携した団体		連絡先(わかれば)		

プレス情報

2024 年

日付	見出し	メディア名
5 月 11 日～17 日	能登半島地震ボランティア募集中	J：COM チャンネル 「ジモトトピックス」
5 月 25 日	みんなでお茶 気分転換 穴水「諸橋団地」住民と ボランティア	北陸中日新聞
6 月 6 日	仮設住宅で孤立防ぐ交流会	NHK
6 月 26 日	「能登を忘れていない」メッセージ伝える拠点に ボランティアの宿泊施設で被災者と交流／都の団体が 穴水で運営	東京新聞
6 月 30 日	ボランティア 市民「助かる」／減少傾向 自治体 「力貸して」	読売新聞
8 月 20 日	能登半島地震被災地でのサロン活動	サテマガ Bi

□ 協力団体・協力者

<協力団体>

穴水町甲復興団
 穴水町社会福祉協議会
 穴水町志ヶ浦地区
 浦上公民館
 兜公民館
 昭和生コンクリート株式会社
 住吉公民館
 禅の里交流館
 特定非営利活動法人 夢かぼちゃ
 能登 清水の里 穴水（おにぎりサロン）
 能登中居鋳物館
 諸橋公民館
 輪島市社会福祉協議会
 輪島市町野金蔵地区
 輪島市門前皆月地区

一般社団法人 子ども村ホッとステーション
 株式会社シムス
 株式会社ゼンリン
 株式会社ニトリ
 株式会社平野本店
 キーコーヒー株式会社
 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会
 サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社
 真如苑救援ボランティア SeRV
 生活協同組合コープいしかわ
 東京都生活協同組合連合会
 特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワークフードバンク愛知
 都内区市町村会福祉協議会
 都内区市町村ボランティア・市民活動センター
 よりみちステーション

<協力者>

ボランティア参加された延べ 389 名のみなさん
 ボランティアスタッフとして参加された大瀧ともひろさん、関谷麻実さん、中尾朋弘さん、鳴嶋恵美子さん、若松麻耶さん

□ 執筆・編集

東京都 生活文化スポーツ局 都民生活部 地域活動推進課 活動支援国際担当 一同

福田信章（一般社団法人 災害協働サポート東京）

浅野芳明（一般社団法人 災害協働サポート東京）

薮田真理子（一般社団法人 災害協働サポート東京）

加納佑一（社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター）

間瀬達成（社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター）

令和 6 年能登半島地震 東京 能登半島地震被災者支援 ボランティアパッケージ 報告書

発行日 2024（令和 6）年 10 月 31 日

発 行 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター

東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 10 階

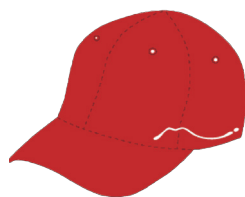
電話 03-3235-1171（代表）

インターネットサイト

ボラ市民ウェブ <https://www.tvac.or.jp/>

令和 6 年能登半島地震および奥能登豪雨 <https://www.tvac.or.jp/special/r6noto/>

印刷所 前田印刷株式会社



東京都

東京ボランティア・市民活動センター

災害協働サポート東京

2024.10